

大阪府何警察署御中

届書式ノ二

死畜解剖場(廢業)御届
死畜解剖場(廢業)御届

一通

何 誰
右村戸長 何 誰

何國何郡何町何番地(寄留何府縣)身分

何 誰

私儀兼テ(死畜解剖場)營業免許相成居候(處)何國何郡何町何番地(字何地)死畜解剖場今般廢業致候間(鑑札相添此段御届申上候也)

右

年號月日

何 誰

右村衛生委員

何 誰

右届出候ニ付奥印候也

右村戸長

何 誰

死畜解剖廢業ニ係ル衛生委員ノ奥印ヲ要ス
大阪府何警察署御中

「警察署ノ記號

何警第何號

免

表

許 死畜解剖場

住所 氏名

長廿曲尺三尺
巾 曲尺一尺
厚廿曲尺一寸
木質 檜

裏 明治何年月日免許

第四款 死畜取締規則取扱手續

○本甲第五号 明治十八年一月十四日

警察署(水上署)ヲ除ク

死畜解剖取扱手續別紙之通相定候條此段及通達候也

死畜取締規則取扱手續

第一條 死畜取締ニ關スル願ハ明治十六年本甲第二百二十四号通達人民諸願調理手續ニ依リ取扱フ可シ

十九年九月本達
乙第三拾一號ヲ
以指令書式改正

第二條 解剖場ノ新設ヲ願出タルキハ明治十六年本甲第二百二十八號通達ニ依リ詳細實地ヲ検査シ其都度本署へ稟議ノ上許否ス可シ
第三條 看板記號又ハ取縮鑑札ノ下付ヲ願出タルキハ營業禁(停)止中ノモノナルカ否ヲ調査シ左ノ式ニ準シ指令シ又ハ鑑札ヲ下付ス可シ
書面之趣(許可シ左ノ記號ヲ付與ス)(許可セス)

何警第何號

大阪府

年號月日

何警察署印

第四條 犯則又ハ其他ノ事故ニ依リ營業ヲ禁停止セサルヲ得サルモノアルトキハ關係書類犯則者ナラハ其處分シタル一件書類ヲ添へ詳悉上申ス可シ
第五條 死畜ノ解剖又ハ埋没スル旨届出タルキハ検査員巡査ヲ派シ検査員ハ解剖者ナシテ規則ニ從ヒ解剖肉ヲ縱横ニ截切シ充分ニ石炭油等ヲ散布シ食用ニ供セサラシメ又埋没ニ係ルハ規則ニ違ハサル様監査スヘシ
第六條 解剖場持主及ヒ其場所并ニ營業人名簿ハ便宜之ヲ調製シ異動アル毎ニ整理ニス可シ

「何ハ警察署ノ頭字ヲ冠ス」

「警察署ノ格印」

何警第何號

年號月日

表	裏
○死畜解剖取縮鑑札	大阪府
何國何郡何村何番地(寄留何府縣)	何警察署
身分 何 誰	
「長曲尺二寸五分 巾全二寸 厚サ三分 木質槍 「方曲尺一寸二分	

第三章 傳染病

第一款 大阪府傳染病豫防規則

●甲第三十五號 明治十六年六月廿五日

當府傳染病豫防規則別冊ノ通相定メ本年七月一日ヨリ實施條條此旨布達候事但本則中掛官吏ノ許可ヲ受クヘキモノハ検査所開設ノ際ハ所轄全所へ其未タ開設セサル場合ニ在テハ所轄警察署若クハ分署へ出願スヘシ

大阪府傳染病豫防規則

第一章 總則

第一條 傳染病虎列拉腸窒扶私赤痢實布の利亞 發疹窒扶私痘瘡ノ六病ヲ云フ豫防ノ方法ハ明治十三年七月第三十四號布告傳染病豫防規則并ニ明治十五年六月第三十一號布告虎列剌病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ノ外尙ホ本則ヲ施行スル者トス
但腸窒扶私赤痢實布臣利亞ノ三病ハ其流行ノ兆アル旨告示シタル場合ニ

於テ之ヲ施行ス

第二條 傳染病消毒ノ方法ハ明治十六年諭第七號告諭ニ依ルヘシ

第三條 自宅療養ヲ爲スルハ其病室ヲ異ニシ看護人ヲ定ムヘシ

但病室ヲ異ニスルヲ得サル場合ニ於テハ掛官吏若クハ戸長ノ指揮ヲ受クヘシ

十八年甲七十五
号ヲ以規則中衛
生委員トアルヲ
戸長ト改ム

第四條 自宅療養ヲ爲スルハ止ヲ得サル要アル者ヲ除クノ外他人ノ出入ヲ謝絶スヘシ

第五條 患者或ハ死体ニ久シク直接シ又ハ甚シク汚穢シタル衣服臥具蚊帳疊蓆等ハ消毒法ヲ施行シ掛官吏若クハ戸長ノ指定スル場所ニ於テ焼却又ハ埋却スヘシ

第六條 患者治癒死亡シ又ハ避病院へ送致シタル後其衣服臥具器具及ヒ病室等ハ掛官吏若クハ戸長ノ指揮ヲ受ケ消毒法ヲ施行スヘシ

第七條 患者治癒シタル後又ハ看護人其他患者或ハ死体ニ親接シタル者ハ消毒法ヲ行フニ非ラサレハ他人ト交通スヘカラス

第八條 患者死亡セシトハ直ニ治療醫及ヒ戸長ニ通報スヘシ

第九條 死体ハ掛官吏若クハ戸長ノ指揮ヲ受ケ消毒法ヲ行ヒ速ニ棺内ニ歛ムヘシ

第十條 病毒ニ汚染シタル臥具衣服器物ノ類ヲ洗滌シタル汚水ハ掛官吏若クハ戸長ノ指定シタル場所外ニ投棄スヘカラス

第十一條 患者若クハ死体ニ觸接シ又ハ排泄物ニ汚染シタル臥具衣服器物ノ類ヲ河川溝渠等ニ於テ洗滌スヘカラス

第十二條 掛官吏ノ許可ヲ得スシテ患者或ハ死体ヲ他ニ移轉スヘカラス

第十三條 航海中船舶内ニ於テ傳染病若クハ該病ノ疑アル症ニ罹ルモノ又ハ其死者アルトハ本則中施行シ得ヘキ豫防及消毒ノ方法ヲ行ヒ置キ着港ノ上直ニ其地掛リ官吏若クハ戸長へ届出指揮ヲ受クヘシ

第二章 虎列刺病

但船舶ト雖モ港灣河川等ニ在テハ猶人家ニ於ケルカ如クスヘシ

第十四條 排泄物汚穢物ハ其都度消毒法ヲ施行シ有蓋ノ器物ニ入レ置クヘシ

第十五條 患者若クハ死体ヲ載セタル船車駕籠釣臺等掛官吏若クハ戸長ノ指揮ヲ受ケ毎回消毒法ヲ施行スヘシ

第十六條 埋葬又ハ火葬セントスルトハ其處置方法ニ付テハ掛リ官吏若クハ戸長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十七條 掛リ官吏若クハ戸長ノ許可ヲ得スシテ患者ノ入りタル厠園ヲ健康人ノ用ニ供シ又ハ其糞尿ヲ汲取り或ハ汲取ラシムルヘカラス

第十八條 療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避病院へ送致シタル後タリ且消毒法ヲ施行セサル以前ニ於テ其家内ニ在ル物品ヲ賣買授受スヘカラス

第十九條 掛リ官吏ノ許可ヲ得スシテ葬儀ヲ執行スヘカラス

第二十條 葬儀執行ノ際吊者ヲシテ死休ニ近接セシメ又ハ飲食ノ饗應ヲナスヘカラス

第二十一條 患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛リ官吏ノ指定スル場所ニ碇泊シ其許可ノ証ヲ得ルニ非サレハ乗組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚陸地又ハ他船トノ交通並ニ他港へ進航スルヲ許サス

第三章 腸室扶斯病 赤痢 病

第二十二條 虎列刺病アル地方ニ航通スル汽船ニハ隔離室及左ニ掲クル物品ヲ準備シ又醫師ヲ乗組セ專ラ豫防消毒ニ従事セシメ且該地方ヨリ乗船スル一切ノ旅客ヲ検査セシメ該病又ハ疑似ノ症ト診察シタルトハ其乗船ヲ拒絕スヘシ

但本條施行終始ノ期日及地名ハ其時々之ヲ告示ス

- 一 結晶石炭酸
- 一 亞爾個保兒若クハ具利斯林
- 一 硫黃

一 上漏

一 柄杓

一 嗽盥

一 便器

一 死屍ヲ入ル、箱

一 患者運搬器

第二十三條 排泄汚穢物ハ其都度消毒法ヲ施行シ有蓋ノ器物ニ入レ置クヘシ

第二十四條 患者若クハ死休ヲ載セタル船車駕籠釣臺等ハ掛官吏若クハ戸長ノ指揮ヲ受ケ毎回消毒法ヲ施行スヘシ

但腸室扶私患者ニ使用シタルモノハ直チニ糞尿ニ汚穢スルニ非レハ消毒ヲ要セス

第二十五條 掛リ官吏若クハ戸長ノ許可ヲ得スシテ患者ノ入りタル厠圍ヲ健康人ノ用ニ供シ又ハ其糞尿ヲ汲取り或ハ汲取ラシムルヘカラス

第四章 實扶埵利亞病

第二十六條 患者ノ痰唾涕汗及ヒ之ニ汚穢スル綿布紙屑ノ類ハ其都度消毒法ヲ行ヒ有蓋ノ器物ニ入レ置クヘシ

第二十七條 患者若クハ死休ヲ載タル船車駕籠釣臺等掛官吏若クハ戸長ノ指揮ヲ受ク毎回消毒法ヲ施行スヘシ

第五章 發疹室扶私病

第二十八條 埋葬又ハ火葬セントスルル其處置方法ニ付テハ掛リ官吏若クハ戸長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十九條 療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避病院へ送致シタル後タリト

モ消毒法ヲ施行セサル以前ニ於テ其家内ニ在ル物品ヲ賣買受授スヘカラス

第三十條 掛リ官吏ノ許可ヲ得ヌシテ葬儀ヲ執行スヘカラス

第三十一條 葬儀執行ノ際吊者ヲシテ死休ニ近接セシメ又ハ飲食ノ饗應ヲナスヘカラス

第三十二條 患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛リ官吏ノ指定スル場所ニ碇泊シ

其許可ノ証ヲ得ルニ非サレハ乗組入船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚陸地又ハ

他船トノ交通并ニ他港へ進航スルヲ許サス

第六章 痘瘡病

第三十三條 埋葬又ハ火葬セントスルル其處置方法ニ付テハ掛リ官吏若クハ

戸長ノ指示ヲ受クヘシ

第三十四條 療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避病院へ送致シタル後タリト

消毒法ヲ施行セサル以前ニ於テ其家内ニ在ル物品ヲ賣買受授スヘカラス

第三十五條 掛リ官吏ノ許可ヲ得ヌシテ葬儀ヲ執行スヘカラス

第三十六條 葬儀執行ノ際吊者ヲシテ死休ニ近接セシメ又ハ飲食ノ饗應ヲナスヘカラス

第三十七條 落痂及ヒ病室ノ塵埃及患者ニ觸レタル綿布紙屑ノ類ハ斷片ニ至

ル迄時々取捨シテ消毒法ヲ行ヒ之ヲ焼却スヘシ

第三十八條 患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛リ官吏ノ指定スル場所ニ碇泊シ

其許可ノ証ヲ得ルニ非サレハ乗組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚陸地又ハ

他船トノ交通并ニ他港へ進航スルヲ許サス

○本甲第百三十三號 明治十六年七月廿三日 各 署

本年當府甲第三十五號ヲ以テ傳染病豫防規則布達相成候該則中掛官吏ノ許可

ヲ受ク可キモノハ檢疫所開設之際ハ所轄同所へ未タ開設セサル場合ニ有リテ

ハ所轄警察署若クハ分署へ出願可爲致旨其筋ヨリ通牒越候條自然出願者有之

節ハ相當處分可致此段及通達候也

●甲第九十號 明治十六年十一月廿六日

本年當府甲第三十五號布達傳染病豫防規則ハ腸室扶斯赤痢實布埤利亞ノ三

病ニ限リ流行時ニアラサレハ施行セスト雖モ該病萌動ノ際相當豫防ヲ爲サレ

ハ終ニ流行ノ慘狀ヲ惹起スハ必然ニ付平時ニ於テモ豫防消毒等ハ充分施行ス
ヘシ

但時宜ニ依リ掛官吏若クハ戸長ニ於テ之レカ豫防消毒方等指揮スルコトアル
ヘシ

第二款 傳染病豫防規則戸長實施手續

●乙第六號

明治十五年八月七日

戸長役場

傳染病豫防規則戸長實施手續左ノ通り相定本月十五日ヨリ施行候條此旨相達
候事

傳染病豫防規則戸長實施手續

第一條 處列拉發疹室扶斯腸扶斯赤痢實布埤利亞及ヒ痘瘡ノ病者アルトハ左
ノ各條ヲ遵守シ豫防及消毒法ヲ施行スヘシ

但消毒法等ハ其病性ニ依リ適宜斟酌スヘシ

第二條 傳染病發顯ノ兆アルトハ其部内ノ人民ニ豫防攝生等ヲ懇諭シ且ツ豫
メ排泄物運搬器鈎臺及ヒ消毒藥品ヲ備ヘ置キ發病者アルニ臨ミ差支ナカラ
シムヘシ

第三條 醫師ヨリ差出シタル診斷醫案全癒死亡及ヒ死体檢案等ノ諸屆書ヲ受
ケタルトハ即時其屆書ニ捺印シ所轄警察署分署ノ所轄ニ係ルハへ回送シ全時ニ
其分署へ以下皆做之

郡區役所へ通知スヘシ

第四條 發病者アルトハ直ニ該家ニ臨ミ豫防消毒法及患者引分ケ方等ヲナス
ヘシ

但警察官ノ未タ臨檢セサル場合ニ於テハ戸長ニ於テ病名標ヲ貼附スルモ
ノトス

第五條 病家ノ外排泄物等存在ノ場所アルトハ速ニ消毒法ヲ行ヒ若シ受持部
外ナレハ其旨擔當者ニ通知ス可シ

第六條 部内ニ發病アルトハ便宜ノ地ニ人夫ヲ雇置キ有毒排泄物等ノ取片付
及ヒ運搬等ノ便ニ供ス可シ

但人夫ハ可成變換セサルヲ要ス

第七條 患者死者及ヒ有毒排泄物等運搬ノ節ハ必ス警察官ニ於テ途中ノ取締
ヲ爲ス可キヲ以テ排泄物及ヒ其汚染物運搬ノ如キハ其度數及ヒ時間等豫メ
所轄警察官ト協議シ置クヘシ若シ又患者及ヒ死者ヲ運搬スルトハ其都度所
轄警察署へ通知ス可シ

但郡部中若シ時々警察官ノ臨檢シ能ハサル土地ニ於テハ其戸長ニ於テ排
泄物ノ運搬其燒却及ヒ埋葬火葬等ノ始終ヲ監査スルモノトス

第八條 患者ニ用ヒタル臥具衣服器物等病毒ニ汚染シ消毒法ヲ行フモ再ヒ用

ニ供シ難シト見認ルモノハ總テ燒棄セシム可シ
但衣服物具ノ燒却ヲ惜テ之ヲ隠蔽シ或ハ交換スル等ノ弊アラサル様嚴ニ
注意スルヲ要ス

第九條 病者ノ上リタル厠ノ有毒糞尿ニハ濃厚石炭酸水ヲ注キ若シ流動シ
易クシテ運搬ニ不便ナルトハ鋸屑等ヲ投シテ汲取ラシメ一定ノ場所ニ於テ
燒却若クハ埋却シ厠ハ十分ニ濃厚石炭酸水ヲ撒布シ后ニ健康人ノ上ルヲ
許ス可シ

但病者上ラサル旨申立ルモ病毒ノ疑アルモノハ必ス本文ノ手續ヲ成スモ
ノトス

第十條 病者自宅ニテ療養消毒等ニ差支ナキモノハ家族中ヨリ看病人ヲ定メ
要用ノ者ノ外ハ可成説諭シテ法ノ如ク消毒シ親族等へ避ケシムヘシ尤モ旅
店貸席長屋學校製造所船舶等ニ在テ發病シ療養行届カサル歟又ハ他ニ傳播
ノ恐レアルト認定スル時ハ避病院ニ入ラシメ其旨所轄警察署及ヒ郡區役所
へ届出可シ

但避病院へ入ラシム可キモノト雖モ醫師ニ於テ死ニ瀕スル者ト診斷スル
時ハ其場ニ於テ一時療養ヲ許スコアルヘシ

第十一條 患者全癒若クハ死亡スルカ又ハ避病院へ入ル時ハ直ニ該家ニ臨ミ

汚染等ノ燒却及ヒ消毒法等ニ注意シ警察官吏立會ノ上充分ニ其方法ヲ施行
スヘシ

第十二條 貧困患者ノ診察料及ヒ藥價ハ之ヲ支給ス可ク且ツ其燒却ス可キ衣
服臥具類ハ相當代價ニテ買上其他埋火葬費及汚物運搬燒却費等救濟ニ關ス
ル一切ノ諸費ハ支給ス可キヲ以テ患者轉歸后十日以内ニ戸長ニテ事情ヲ調
査シ其旨連署ノ上郡區役所ヲ經テ府廳へ申出ツ可シ

第十三條 醫師二名以上ニシテ一患者ヲ診察シ各意見ヲ異ニスル旨届出ツル
時ハ豫防消毒法ヲ施行シ置キ其届書ニ捺印シ速ニ所轄警察署へ送附ス可シ

第十四條 虎列拉病者アルルハ別紙虎列拉病者取調書式ニ據リ調製シ五日以
内府廳衛生課へ差出スヘシ

記載ノ解

虎列拉病者取調書

問答ノ體ヲ上下ニ列示シタルハ記載ニ便ナラシメタル者ニシテ其法ハ例ヘハ第一項郡區町村トアルニ某郡某村ニテ發シシ者ナレバ區町ノ二字ヲ塗抹シ及某區某町ニ	(一) 郡區町村	番地
	職 男 女	姓 名
		年
發病ハ何日何時頃ナルカ	月 日 午 後	前 時

十六年乙第廿六号ヲ以テ第十四條追加ス

テ發セル者ナレハ郡村ノ二字ヲ塗抹スルカ如シ他ノ項目モ亦之ニ倣フヘシ	(三) 發病ノ場所ハ如何	郡區
(一) 郡區町村番地ハ本籍寄留ニ拘ラス本人現住ノ地名ヲ記入シ又職業ハ各本人ノ現業ヲ明記シ例ヘハ農業主〔農ニシテ自ラ勞役セサル者〕ト自ラ耕作スル者トチ區別シ又婦女老幼等ニシテ職業ナキ者ハ戶主何職業ト記スベシ	(四) 体格ハ如何	強弱
(二) 發病ハ醫師ノ診斷時日ニ拘ラス發病シタル時日ヲ記入スベシ	(五) 婚姻セシヤ	未既 有配偶 無配偶
(三) 發病ノ場所ハ其發シタル郡區町村名ヲ記シ自宅ナレバ自宅旅籠屋ナレバ旅籠屋學校ナレバ學校途上ナレバ途上等ト明記スベシ	(六) 發病前ニ罹リタル病ハ無キヤ	有無
(八) 發病ノ誘因ハ例ヘバ不貞若クハ過度ノ飲食并其品名或ハ非常勞動等渾テ其誘因ト認ムル者ヲ記入スベシ若シ無キハハ記入ニ及バズ	(七) 常ニ虎列刺病ヲ甚シク畏ルハ性ナルカ	畏否
(十七) 三間以下ナレハ疊數並現住人ノ數ヲ記入シ四間以上ナレバ記入ニ及ハズ	(八) 發病ノ誘因ハ如何	
	(九) 前年其住家ニ同病患者アリシヤ	有無
	(十) 前年家族中ニ同病患者アリシヤ	有無
	(十一) 同病多キ地ニ行キシヤ	有無
	(十二) 家内ニ同病患者アリシヤ	有同時以前 有以後 無
	(十三) 近隣ニ同病患者アリシヤ	有同時以前 有以後 無
	(十四) 同病患者又ハ其汚物等ニ觸接セシヤ	觸不觸

ル郡區町村名ヲ記シ自宅ナレバ自宅旅籠屋ナレバ旅籠屋學校ナレバ學校途上ナレバ途上等ト明記スベシ	(十五) 暮シ方ハ如何	上中下
(八) 發病ノ誘因ハ例ヘバ不貞若クハ過度ノ飲食并其品名或ハ非常勞動等渾テ其誘因ト認ムル者ヲ記入スベシ若シ無キハハ記入ニ及バズ	(十六) 住家及其向ハ如何	表一戸建表長屋 裏一戸建表長屋 東西南北
(十七) 三間以下ナレハ疊數並現住人ノ數ヲ記入シ四間以上ナレバ記入ニ及ハズ	(十七) 間數並現在人ノ數ハ如何	四間以上三間以下 八疊
	(十八) 家屋ハ清潔ナリヤ	清潔 不潔
	(十九) 飲料水ハ如何	上水 井水 掘井 一家用 掘井 一家用 共用 共用
	(二十) 同一ノ飲料水ヲ用ル者ニメ同病ニ罹リシ者ナキヤ	有無
	(廿一) 便所ハ如何	一家用 總雪隠
	(廿二) 同一ノ便所ヘ同病患者ノ行キシヲ無キヤ	有無
	(廿三) 下水ハ如何	通阻
	(廿四) 近傍ノ溼否及燥濕ハ如何	清潔 不潔 燥濕
	(廿五) 療養ノ場所ハ如何	自宅 病院
	(廿六) 患者ハ曾テ虎列刺病ニ罹リタルヲナキヤ	

郡 區
町 村

戶長氏名印

年 月 日

十七年乙第十二
号ヲ以テ第十五
條以下追加ス

第十五條 腸室扶斯赤痢實布埤利亞ノ三病ハ第二條及第四條乃至第十一條ノ
事項ニ限リ流行ノ兆アル場合ニ於テ施行スヘシ

第十六條 平時ニ於テ腸室扶斯赤痢實布埤利亞ノ三病ニ罹ル者有之節ハ豫防
消毒方等ノ行否ヲ督察シ若シ行届サルカ或ハ忽諸ニ付スル者アルハ該方
法ヲ懇諭シ充分施行セシムヘシ

第十七條 豫防消毒等ノ施行ヲ拒ミ若クハ懇諭ヲ肯セム又ハ妨碍ヲナス者有
之ハ其官所轄警察官ヘ申告スヘシ

乙第六十四號 十六年五月廿四日

郡區役所
戶長役場

明治十五年^{八月}當府乙第百六號ヲ以テ傳染病豫防規戶長實施手續相達置候處
該手續第二條ニ依リ之レニ使用スヘキ器具消毒藥等具備スヘキ筈ノ處各町村
區々ニ涉リ實地不行届ノ向モ有之趣ニ相聞ヘ候條戶數凡千戶ニ付左ノ割合ヲ
以テ具備致シ置キ流行時ニ際シ差支ナキ様可致此旨相達候事

但僻地之村落等ニシテ戶數之目安ニ準據シカマキ向ハ便宜ノ方法ヲ設ケ支
障ナキ様具備スヘシ

一患者ノ移轉ニ供スヘキ釣臺

壹 個

一吐瀉物汚穢物等ノ運搬器具

各二 荷

一漱盥便器ノ類

各五 個

一病家其他ニ使用スヘキ消毒藥

各 種
石炭酸クリス
リン硫黃ノ類

第三款 醫師傳染病者届出並取扱規則

甲第八拾四號 明治十五年八月七日

醫師傳染病者届出并取扱規則左之通相定本月十五日ヨリ施行候條此旨布達候
事

但明治十三年本府天第百十號同天第百二十七號及ヒ明治十四年本府甲第百
二十二號同甲第百二十三號布達ハ同日限リ廢止ス尙達指令等改正規則ト抵
觸ノモノハ總テ消滅候儀ト心得ヘシ

醫師傳染病者届出并取扱規則

第一條 虎列拉發疹室扶斯腸室扶斯赤痢實布埤利亞及ヒ痘瘡ノ傳染病患者ト
診斷セシトハ別紙第一號届用紙ニ住所姓名職業及ヒ發病診斷時日等ヲ詳記
シ速ニ患者町村ノ戶長ヘ差出スヘシ遲クモ二十四時間ヲ過クベカラス
第二條 傳染病死体檢案ニ係ル時ハ別紙第二號届用紙ニ其要件ヲ詳記第一條
ノ手順ヲナスヘシ

第三條 家族或ハ親族等ニ於テ万一届出テ拒ム者アルトハ懇切ニ説諭シ若シ承服セサレハ治療ヲ施シタルト否トニ拘ハラズ速ニ第一條手續キチ爲スヘシ

第四條 醫師二名以上ニシテ一患者ヲ治療スルトハ協議ノ上其一入ヨリ届出ヘシ然レモ其所見ヲ異ニスルトハ各自速ニ意見書ヲ認テ戸長ヘ差出スヘシ但他醫ノ施治ニ係ル患者ヲ診断シ萬一傳染病ナルトハ前醫届出ノ有無ヲ問ヒ若シ無届ナレハ速ニ第一條ノ例ニ從ヒ發病届ヲナスモノトス

第五條 傳染ノ景况發病ノ誘因及ヒ經過治法等ハ別紙第三號醫家用紙ニ記載シ必ス三日以内ニ最前届書ヲ差出シタルトハ戸長ヘ差出スヘシ

第六條 患者全癒セシトハ三日以内死亡シタルトハ二十四時間以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ別紙第四號届用紙ニ詳記シ差出スヘシ

但患者又ハ醫師ノ都合ニ依リ轉醫シタルトハ後ノ治療醫ヨリ届出ルモノトス

第七條 虎列拉病流行ノ兆アルトハ總テ腸胃ノ疾病ニ注意スヘキハ勿論若シ吐或瀉アル患者ヲ診察シタルトハ假令虎列拉症ト診定セサルモ其病況ニ依リ豫防消毒等ニ注意スヘキ旨ヲ病者及ヒ家人ニ懇諭スヘシ

第八條 第一條ニ掲ケタル傳染病ヲ診断シタルトハ豫防消毒法及ヒ患者引分

方等ヲ病者又ハ家人ニ告示シ若シ避病院ニ入ラシムベキモノト見認ルトハ入院ヲ懇諭スヘシ

第九條 虎列拉腸窒扶斯及ヒ赤痢ニ罹ル者ヲ診スルトハ發病以來上リタル圖ヲ懇問シ者シ他家或ハ路傍ニ於テ上圖シタルトハ家人ノ口述ヲ以テ戸長ヘ其旨通知セシムヘシ

但虎列拉病者ニ限り吐逆シタル場所モ本文ノ如クナスヘシ
第一號 用紙半紙二ツ切

警察官檢印

○

戸長檢印

○

傳染病診斷届

病名	何國何郡何町何丁目何番地 〔住 寄 留〕 〔何ノ某方止宿〕
何々病	〔何縣何國〕 何 某 何 某 何 業 職 何 某
發病日時	明治何年何月何日午何時何分 齡何年何ヶ月

右御届申上候也

何國何郡何町何丁目何番地

醫師 何 某

明治何年何月何日前後何時何分

大阪府知事建野郷三殿

十五年甲第九十一号ヲ以追加
十八年甲第六百六号ヲ以追加

欄内ノ職業ハ患者ノ職業ヲ記ス可シ
常職定業ナキ者ハ一家ノ營業ニヨル可シ

天然痘患者ハ氏名ノ上ニ未痘者又ハ初種再三種濟ノ區別ヲ明記スヘシ
第二號 用紙半紙ニツ切

警察官檢印 ○ 戸長檢印 ○

傳染病死体檢案届

病名	何國何郡何町何丁目何番地 〔住 寄 留〕 〔何某方止宿〕
何	〔何 縣 何 國〕 何 某 何 某 女 男

何 業 何 某

齡何年何ヶ月

々 病	何 業 何 某
發病日時	何月何日午 <small>前</small> 後何時何分
死亡日時	何月何日午 <small>前</small> 後何時何分
檢案日時	何月何日午 <small>前</small> 後何時何分
傳染ノ景况發病ノ誘因	
症候	
右御届申上候也	
何國何郡何町何丁目何番地	
醫師 何 某	
明治何年何月何日午 <small>前</small> 後何時何分	

大阪府知事建野郷三殿

全上

欄内職業ハ患者ノ職業ヲ記スヘシ
常職定業ナキ者ハ一家ノ營業ニヨル可シ
天然痘患者ハ氏名ノ上ニ未痘者又ハ初痘再三種濟ノ區別ヲ明記スヘシ
第三號
用紙半紙二ツ切

警察官檢印

○

戸長檢印

○

傳染病醫案

症候	傳染病ノ景况發病ノ誘因	病名	何國何郡何町何丁目何番地 〔住 寄 留〕 何某方止宿
		何々病	(何縣何國) 何 某 何 某 業 職 何 某 男 女
		年齡	何年何ヶ月

經過	治法	何月何日	診斷届濟	明治何年何月何日午後何時何分	大阪府知事建野郷三殿
		何國何郡何町何丁目何番地	醫師 何 某		

欄内職業ハ患者ノ職業ヲ記スヘシ
常職定業ナキ者ハ一家ノ營業ニヨル可シ
第四號
用紙半紙二ツ切

警察官檢印 戸長檢印

傳染病(全癒若クハ死亡)届

何國何郡何町何丁目何番地〔住 寄 留〕
何某方止宿

病々何		(何縣何國)		何	某	何	某	何	某	女男
發病日時		月	日	午	時	分	齡何年何ヶ月			
轉飯日時		月	日	午	時	分				
前醫		何郡何町何丁目		何	某					
右御届申上候也										
何國何郡何町何丁目何番地										
醫師 何 某										
明治何年何月何日 午前何時何分										
大阪府知事建野郷三殿										
欄内職業ハ患者ノ職業ヲ記スヘシ 常職定業ナキ者ハ一家ノ營業ニヨル可シ										

会上

第四款 麻疹病届出

●甲第四號 明治十八年一月三十一日

醫師ニ於テ麻疹病ヲ診斷スル者ハ第一號其轉歸ハ第二號死体檢案ハ第三號雛形ニ據リ届書ヲ製シ速ニ患者所在ノ町村戸長ヘ差出ヘシ

但第一號第三號雛形中傳染ノ景况發病ノ誘因症候經過治法ハ其病症ニ異狀無之分ハ記載セサルモ苦シカラス

第一號

警察官檢印

戸長檢印

麻疹病届

國區町 丁目 番地

業職

齡年 ヶ月

傳染ノ景况發病ノ誘因

第四編衛生

麻疹病届出

症候	
經過	
治法	
發病	國區町 丁目番地 醫師
明治	年 月 日 午 時 分
大阪府 殿	
欄内ノ職業ハ患者ノ職業ヲ記スヘシ 常職定業ナキ者ハ戶主何職業ト記スヘシ	
第二號	
警察官檢印	
戸長檢印	
麻疹病届	
國區町 丁目番地	

業職	
發病日時	月 日 午 時 分
轉飯日時	月 日 午 時 分
前醫	國區町 丁目番地 醫師
右御届申上候也	
大阪府 殿	
欄内ノ職業ハ患者ノ職業ヲ記スヘシ 常職定業ナキ者ハ戶主何職業ト記スヘシ	
第三號	
警察官檢印	
戸長檢印	
麻疹病届出	
國區町 丁目番地	

麻疹病死体檢案届

國區町 丁目 番地
業職

齡年 月

發病日時 月 日 午 時 分

死亡日時 月 日 午 時 分

檢案日時 月 日 午 時 分

傳染ノ景
誘發病ノ景
候症

右御届申上候也

國區町 丁目 番地
醫師

明治 年 月 日 午 時 分

大阪府

殿

欄内ノ職業ハ患者ノ職業ヲ記ス可シ

常職定業ナキ者ハ戶主何職業ト記ス可シ

●丁第二號

明治十八年二月二日

警察本署

警察署又ハ分署ニ於テ麻疹病ノ届ヲ受ケタル所ハ捺印ノ上衛生課へ送付セシム

ムヘシ此旨相達候事

○本甲第二十號

明治十八年二月十七日

警察署

麻疹病患者届書差出候節巡査該病家へ臨監候向モ有之趣右ハ病勢如何ニ依リ臨監セサルヲ得サル場合可有之候得共尋常ノ病勢ト見認ムルモノハ不及其儀候條此段及通達候也

○本甲第二十七號

明治十八年三月五日

警察署

麻疹病之義ハ該患者員數調査上要用ニシテ無洩可爲届出旨趣ニ候處其届用紙不完全等ノ故ヲ以テ受理セサル向モ有之趣相聞右ハ自然手數ヲ厭ヒ届出方等閉ニ打付シ候者有之候テハ調査上不都合ニ候條以來患者ノ住所氏名及ヒ病名發病日時等明瞭ナルモノハ用紙ノ如何ニ拘ラス總テ受理シ成規之通取計フ可シ此段及通達候也

但シ事實不明瞭ノ廉モ有之候得ハ其廉ヤヲ推問シ可及丈ケ返付セサル様注

意ス可シ

第五款 警察官六傳染病取扱心得

●丁第百六號

明治十五年八月三日

警察本署

十八年甲第七十五号ヲ以衛生委員トアルヲ戸長ニ改ム

警察官六傳染病取扱心得別紙之通相定候條此旨相達候事

六傳染病取扱心得

第一條 傳染病患者アルノ報ヲ受ケタルキハ明治十三年太政官第三十四號布告傳染病豫防規則及ヒ同年內務省乙第卅六號達傳染病豫防心得書ニ據リ戸長實行スル豫防消毒方等ヲ監查スヘシ

但其時機ニ依リ戸長ノ取扱ヘキ條項ヲ執行スルコトヲ得

第二條 傳染病患者アルノ届ヲ受ケタルキハ速ニ該患者ノ家ニ派出シ門戸ニ病名標ヲ貼付シ排泄物ハ勿論患者ニ接シタル衣類器具等消毒法ノ行否ヲ監查シ若シ不都合アルキハ相當ノ處分ヲ爲ス可シ

但時宜ニ依リ戸長ヲシテ病名標ヲ貼付セシムルコトアル可シ

第三條 左ニ記列スル類ニシテ傳染病ニ罹リ他ニ引受人ナキ者ハ其地戸長衛生員ヲシテ避病院ヘ送付スルノ手續ヲナサシム可シ

但引受人アリト雖モ自宅療養不行届ト見認ルカ又ハ入院ヲ請願スルモノハ本條ノ手續ニ從フモノトス尤モ醫師ニ於テ死ニ瀕スルト認ムルトキハ

該家ニ於テ一時療養ヲ許スコトアルヘシ

- 一 諸會社及諸製造所ニ常住スル者
 - 二 裏長屋等ニ住居シ合雪隠ヲ用スル者
 - 三 貧困ニシテ一室ニ雜居スル者
 - 四 學校ニ寄留及旅店貸座敷等ニ寢泊スル者
 - 五 途中ニ於テ發病シタル者
 - 六 諸船舶ニ在ル者
 - 七 鰥寡孤獨ニシテ他ニ看護人ナキ者
- 第四條 患者全癒若シハ死亡シ或ハ避病院ニ入りタル等ノ節ハ速カニ該家ニ臨ミ消毒法ノ適否ヲ監查シ十分行届キタルト認ムルキハ病名標ヲ除去スヘシ
- 第五條 療養中ノ患者所轄外ヘ移住ノ儀願出豫防上差岡ナキト認ムルキハ許可シ其地所轄警察署及ヒ衛生課ヘ通報スヘシ
- 第六條 傳染病患者他ノ所轄ヨリ移住ノ通知アルキハ直ニ該家ヘ派出シ第二條第九條ノ手續ニ從フヘシ
- 第七條 外國人傳染病ニ罹リタル旨聞知シタルキハ衛生課ヘ通知スヘシ
- 第八條 傳染病ノ届アリト雖モ其病狀ニ疑團アルカ又ハ他ノ病者ニシテ傳染

病ノ疑アルモノハ最寄ノ醫ヲ招キ診斷セシム可シ

但本條ノ場合ニ於テハ主治醫ノ立會ヲ要セズ專ラ該醫ノ診斷書ニ據ルモノトス

第九條 自宅ニ於テ療養ヲナスモノハ一日二回以上該家ニ派出シ消毒豫防等ノ行否ヲ監査スヘシ

第十條 診斷全癒及死亡體檢案等ノ諸届並ニ醫案意見書等ヲ受ケタルキハ捺印ノ上速ニ衛生課ヘ送付スヘシ

第十一條 患者及死者排泄物等運搬ノ節ハ必ス途中ヲ護送シ埋火葬及排泄物焼却ノ始終ヲ監査スヘシ

但人家遠隔ノ地ニシテ時々護送若クハ監査シテマハサル場合ニ於テハ戸長ヲシテ其取締ヲ爲サシムヘシ

第十二條 腸窒扶斯赤痢實布埜利亞ノ三病ハ第二條乃至第四條及第六條第九條第十一條ノ專項ニ限リ流行ノ兆アル場合ニ於テ施行スヘシ

第十三條 平時ニ於テ腸窒扶斯赤痢實布埜利亞ノ三病ニ罹ル者有之節ハ豫防消毒方怠慢ナキヤ否ヲ督察シ若シ行届サル爲メ病毒傳播ノ虞アリト認ムル

キハ戸長ニ指揮シ相當豫防消毒等ヲ施行セシムヘシ

第十四條 豫防消毒等ノ施行ヲ拒ミ若クハ懸諭ヲ肯セス又ハ妨碍ヲナス者有

十九年丁第四十
号ヲ以テ第十條
中(警察本署ヲ
經テ)ハ七字ヲ
削除ス

十七年丁第十一
号ヲ以テ第十二
條以下ヲ追加ス

之旨戸長衛生委員ヨリ申告スルルハ相當ノ手續ヲナスヘシ

○本甲第二百四十八號 明治十五年七月廿二日 各 署

虎列拉病ニ罹リタル死屍及ヒ吐瀉物等焼却之節往々遅延或ハ疎漏ニ涉ルノ弊害有之趣相聞候ニ付焼却場ヘ護送セシムル實地ニ於テ焼却了迄嚴重取締可致此段乃通達候也

○本甲第二百五十六號 明治十五年七月廿九日 各 署

軍人軍属途中或ハ旅舎等ニ於テ虎列刺病ニ罹リタル節ハ直ニ其本人所管ヘ通報候ヘハ速ニ彼方ヨリ引取方可取計等若シ急遽ニシテ不得止キハ避病院ヘ入置其旨通知可致右大阪鎮臺ヘ打合濟ニ付此段及通達候也

○本甲第二百七十號 明治十五年八月十四日 各 署

巡查ニ於テ虎列刺病ニ罹リ候節病毒ニ汚染シタル官服属具等ハ直ニ焼却ノ上品目書ヲ添其旨申報ス可シ此段及通達候也

但病毒ニ汚染セサル物品ニシテ用ニ堪ユヘキモノハ消毒法ヲ施行スヘシ

○本乙第七十三號 明治十八年九月廿二日 水上區部 警察署

虎列拉病患者吐瀉物河中ニ投棄候モノ往々有之候ニ付テハ四區及接近町村路並各傍河川等ヘ別紙ノ通榜示建設相成候條取締方注意可致此段及通達候也

揭 示

一虎列拉ハ勿論吐瀉兼發患者ノ排泄物並ニ之ニ汚染シタルモノ又ハ死体ニ觸レタル物及ヒ之ニ洗濯セシ汚水等ヲ河川溝渠芥溜等ニ棄ヘカラス
一淀川筋源八渡下流ノ河水ヲ飲料ニナス可カラズ

明治十八年九月

大坂府

○本乙第八十一號 明治十八年十月廿二日

郡部察警署 曾根崎天王寺堺岸和田署ヲ除ク

他管下在藉ノ行旅人ニシテ虎列拉病ニ罹リタルキ及ヒ死亡シ若クハ避病院ニ送リタルキハ其旨速ニ本籍戶長ニ通報スヘシ此段及通達候也

但入院後死亡シタルモノハ通報スルニ及ハス

○本甲第百號

明治十八年十月廿二日

警察署

虎列刺病ニ關スル犯罪ヲ裁判所ニ交付セントスルキハ豫メ一件書類ヲ添ヘ本署ニ稟議ス可シ此段及通達候也

○本甲第百十六號

明治十八年十二月四日

警察署

自今虎列刺病並天然痘發生及死亡之義ハ速ニ本府衛生課ニ通報スヘシ此段及通達候也

○本丙第三號

但電話架設アル署ハ電話ヲ以テ通報スル義ト心得ヘシ
明治十九年二月廿六日

警察署 水上署ヲ除ク

天然痘患者届書欄内ニ未痘又ハ初種再三種濟等詳細記入スヘキ成規ノ處間々

無記ノ届書ヲ差出ス者有之不都合ノ義ニ付其署ニ於テ受理ノ節篤ク注意スヘシ此段相達候也

○本乙第二十三號

明治十九年三月十六日

區部曾根崎天王寺堺奈良 警察署

虎列拉發病者アリタルキハ別紙條項ニ準據シ消毒施行等一層行届ル様注意スヘシ但シ患者轉歸後消毒ヲ終ヘサル間ハ總テ他人ノ交通ヲ停止スル義ト心得ヘシ此段相達候也

患者アリシキ取扱手續中尤注意ノ件

一吐瀉物汚染シタル物品ノ内消毒シテ用ニ立ツヘキ見込ノ品ハ便宜蒸氣消毒法ヲ施行シ用ニ立ツサル者ト見認ル物品ハ燒却セシムルコト

一患者ノ上リタル便所消毒藥ハ惣テ粗製硫酸ヲ用ユヘシ其用量ハ尿尿大凡ツ一荷未滿ナルキハ一磅一荷以上二荷迄ハ二磅以下ニ倣ヒ増減投入シ汲取

ラシメ然ル後五十倍ノ粗製石炭酸水ヲ以テ周圍ヲ充分ニ洗滌シ汲取ラシメテ後健康人ノ上ルヲ許スコト

但シ粗製硫酸ヲ投入シタルキハ其沸騰ノ鎮定スル迄ハ近傍ニ避居ルヘシ一病者全治死亡跡又ハ患者移轉跡及ヒ病者ニ接シタル疑アル物品ハ硫黃ヲ以テ薰蒸スヘシ其用量ハ飯令ハ八疊敷ナレハ硫黃三百目ニ木炭未大約十匁ヲ混合シ二三ノ火鉢ニ分配シ熾火ヲ之ニ點シテ六時間乃至八時間薰スヘシ尤

モ薰蒸中ハ窓戸ヲ鎖シ空氣ノ流通セサル様スヘキ事
一前項薰蒸ノ後ハ家内ノ大掃除ヲナサシメ疊板間等ハ稀薄石炭酸水ヲ以テ淨拭セシムルヲ

一裏長屋等ニテ不潔ノ家屋其他床板等ノ張方粗ニシテ吐瀉物等ノ洩レル疑アル向ハ床板ヲ放テ床下迄掃除消毒セシムルヲ
一患者アリシ家ハ井戸ノ浚漂ヲナサシムルヲ

但シ患者ノ上リタル便所ト井戸ト近接(三間以内)シタル場所及ヒ便所或ハ井戸ノ不完全ニシテ汚水滲透ノ憂アルモノハ井水汲取ルヲ得サル様相當ノ蓋ヲナシ其便所或ハ井戸ノ改修ヲ家主ニ命シ修繕浚漂濟迄ハ井水ヲ汲取ラサル様懇諭シ置クヲ

一患者アリシ家ノ周囲ノ小溝芥溜等ハ掃除セシムルヲ
一患者ニ觸接シタル者ニシテ他へ避ケシムルハ百倍ノ石炭酸水ヲ以テ身体ヲ能ク拭ヒ更衣セシムルヲ

但更衣シタル舊衣類ハ亞硫酸瓦斯ヲ以テ薰蒸スヘシ

一第五第七項ノ穢泥塵芥等ハ其所轄戸長役場或ハ其家人家主等ニ於テ海中ニ投棄セシムルヲ

○本甲第三十七號 明治十九年三月十九日 警察署

痘瘡患者之糞尿ハ粗製硫酸ヲ以テ消毒スルニ止メ燒却スルニ不及候條爲心得此段相達候也

○本乙第三十二號 明治十九年四月二日 區 曾根崎天王寺 警察署

發疹室扶私患者ニシテ自宅ニ於テ療養スルモ豫防且ツ消毒等充分ナラスシテ他へ傳播ノ虞アリト認定スルハ難波避病院へ入院セシム此段相達候也

○本乙第三十三號 明治十九年四月八日 區 曾崎崎天王寺 警察署

赤貧者ニシテ腸室扶私病ニ罹リ數人一室ニ起臥シ豫防消毒等充分ナラスシテ他ニ傳播ノ虞アリト見認ムルハ難波避病院へ入院セシム此段相達候也

○甲第十五號 明治十四年三月十八日 市郡各署

石川縣ヨリ傳染病死休葬儀執行ノ儀ニ付主務省へ伺指令別紙ノ通々知越候ニ付此段爲御心得及通知候也

昨十三年御省乙第卅六號御達傳染病豫防心得中大概六病トモ死体ハ充分ニ稀薄石炭酸水ニ浸シタル單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミ成タケ速ニ棺内ニ歛ムヘシ云々ト有之是ニ因テ之ヲ觀レハ死体ハ一層毒素ヲ逞シ其危險ノ者ニ有之然ルニ從來縣下ノ如キ渾テ死者ハ入棺ノ上親族ノ者等隨從シテ寺院ニ至リ佛前ニ於テ葬儀式ヲ行ヒ而シテ火葬又ハ埋葬スル習慣ノ處傳染病死体ノ如キハ固ヨリ傳播ノ恐有之右様葬式ハ無論難爲致筋ト存候へ共六病ノ中自ラ輕重

アリ其葬儀式ヲ行フヘキモノト行フヘカヲサルモノトニ至テハ右御達面ニ於テ判明不致且又病毒傳播ノ恐ヨリシテ六病トモ渾テ葬儀ヲ行ハセサルモノトスルモ從來習慣ノ点ヨリ觀レハ聊カ民情ニモ可相關ト存候ニ付豫テ取扱方相定置申度該件ニ付テハ現今伺出ノ向モ有之候條至急御指揮相成度此段相伺候也

(指令) 明治十四年一月廿一日

書面伺ノ趣充分ノ消毒法ヲ行ヒ蓋棺シタル上ハ尋常ノ葬儀ヲ行ハシメ不苦候事

●丁第百十二號 明治十五年八月十二日 警察本署

葬儀ハ人ノ大禮ニシテ輕忽ニ附スヘカラサル者ニ付虎列拉病者死亡セシ時ハ消毒藥ノ注灌歛棺全備シ家屋ノ蠶蒸排泄汚穢物等ノ燒却等十分行届キヌリト警察官並ニ戸長等ニ於テ認定セシトハ親戚朋友ノ見送り等差許不苦候條此旨訓示候也

○甲第百三十六號 明治十五年十月廿四日 各署

傳染病ニ罹リ死亡ノ者葬儀之儀ニ付戸長ノ伺ニ對シ左ノ通御指令相成候條爲心得此段及通達候也
六傳染病ノ内格列刺病發診室扶斯ヲ除ノ外四傳染病死者ハ是迄消毒濟ノ上ハ

平常死亡人同様葬送式取扱來候處本年示第百十三號乙百六號ヲ以テ六傳染病取扱規則御達相成敬承仕候附テハ兼テ五傳染病ハ格列刺病全樣取扱罷在候ニ往々人民ニ於テハ習慣ニ基キ苦情多ク該患者有之度々説諭方ニ困苦仕候始末依テ熟考候ニ傳染病豫防心得等ニモ腸室扶斯病等ニ至テハ空氣ノ不潔飲水ノ汚濁食物ノ不長カ因トナリ發ス其病毒者糞尿ニ由テ傳播スル者ナリト明言アリ果シテ然ルトハ虎列刺病發診室扶斯ノ如ク人民交通ヨリ四方ニ蔓延スルモノニ非サルハ論ヲ待タスト想像ス加之ニ葬式ハ人民忽ニス可ラスト云々御布告モ有之虎列拉病ノ如キニモ警官戸長ニ於テ豫防行届候ト見做スルハ親族送方被差許居候事ニ付腸室扶斯赤痢實布哇里亞ノ三傳染病等ハ消毒法警官戸長ニ於テ行届候ト見做スルハ平常死亡人同様葬送式取行苦シカラヌヤ此段奉伺候也

(指令)

書面伺之通

○本甲第百四十五號 明治十六年八月廿七日 各署

傳染病豫防規則中葬儀執行許可心得別紙之通相定候條自今右心得ニ依リ可取計此段及通達候也

第一條 虎列刺發疹室扶斯痘瘡病死者ノ葬儀ハ左ノ各項ニ據リ之ヲ許可スル

モノトス

但未タ流行ノ兆ナキ場合ニ在テハ第二項第三項ヲ適用セサルモ坊ナシ

一 豫防消毒法ハ掛官吏警察官吏
検疫委員ニ於テ豫防心得書ニ準據シ充分之ヲ施行セ

シメタル也

二 患者死亡後十二時間以内葬送ヲ執行スルコト

三 葬儀ニ列スル者ハ神官或ハ僧侶及親戚朋友等附屬人足
トモ死者ノ爲メニ欠ク

可カラサルモノ凡ソ三拾名以内

四 死者ノ家ニ於テハ神官或ハ僧侶會葬人等一切酒食ノ饗應ヲナサハル

コト

第二條 葬儀執行出願者ニハ前條第二項ヨリ前條第四項マテ遵守ス可キ旨ノ

書面ヲ差出サシメ之ヲ許可シ現場監理ノ巡查若クハ吏員等口頭ヲ以テ許可

ス可カラス

第三條 流行ノ勢ヒ盛ニシテ掛官吏ニ於テ傳播ノ憂アリト思料スルモハ葬儀

執行ヲ許可セサルコトヲ得

第四條 葬送ノ時限及ヒ會葬者ノ員數等第一條第二項第三項ノ定限アリト雖

モ實際不得止事情アルモノハ此制限ヲ超過シ許可スルコトヲ得

○本甲第百六十四號 明治十六年九月廿日

各 署

傳染病豫防規則十三年七月
月公布及ヒ豫防法心得十六年六月
當府告示中ニ記載ノ病名票貼付云々ハ

當分ノ内施行ニ不及十五年八月
月公布候處目今右病名票門戸へ貼付セシメ候向モ有之趣

不都合ニ候條右様ノ義無之様可致此段及通達候也

第六款 種痘規則附警察官注意方

●甲第百二十二號 明治十八年十二月廿八日

種痘細則別紙ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治十六年六月當府甲第三拾二號布達ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘細則

第一條 種痘ハ痘種所若クハ種痘醫ニ就キ其施術ヲ受クヘシ若シ初種ニシテ

不善感ナルモハ更ニ施術ヲ受クヘシ

第二條 種痘所ハ毎戸長役場部内ニ設ケ種痘擔理醫ヲ置キ種痘ノ施術ヲ擔理

セシムヘシ

第三條 種痘所ヲ開キ接種スルモハ其都度所轄戸長役場ヨリ位置及期日ヲ廣

告スヘシ

第四條 天然痘又ハ變痘流行ノ兆アルモハ未痘兒ハ勿論初種及再三種濟之者

ト雖モ種痘後ノ久暫ニ拘ハラス普ク種痘スヘシ

第五條 種痘醫ハ接種後七日乃至九日目ニ於テ檢診シ若シ初種ニシテ不善感

ナルトハ更ニ接種シ檢診ノ後直ニ第一號書式ニ依リ種痘濟證書ヲ付與スヘシ

但三種濟ニシテ試種ヲ爲シタルトハ證書ノ欄外ニ其旨記入捺印スヘシ

第六條 種痘醫及ヒ醫師(齒科及醫科醫ヲ除ク以下倣之)ハ天然痘濟ノ檢査ヲ乞フ者アルトハ之

ヲ密査シ其徵憑確明ナル者ハ第二號書式ニ依リ天然痘濟證書ヲ付與スヘシ

天然痘患者ヲ診療シタルトモ亦同シ

第七條 種痘濟又ハ天然痘ニ罹リタル者第五條若クハ第六條ノ證書ヲ受領シ

タルトハ直ニ該証書ヲ戶長役場ニ差出シ戶長ノ檢印ヲ受クヘシ

第八條 種痘濟若クハ天然痘濟證書ヲ亡失毀損シタルトハ最前施術又ハ檢査

ヲ受ケタル醫師ニ再求シ若シ其醫師ノ死亡等ニ係ルトハ他醫ニ就キ更ニ檢

査ヲ乞ヒ其證書ヲ受領シ第七條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 種痘醫及醫師ハ第八條ニ依リ證書ノ書換又ハ付與ヲ乞フ者アルトハ

之ヲ付與スヘシ種痘醫ニシテ種痘濟證書ヲ與フル場合ニ於テ他醫ノ施術ニ

係リ其痕跡判然セサル者ハ試種ノ上初種濟證書ヲ付與スヘシ

第十條 轉籍又ハ寄留シタルトハ必ス種痘濟若クハ天然痘濟證書ヲ所轄戶長

役場ニ差出シ戶長ノ檢閱ヲ受クヘシ

第十一條 左項ノ場合ニ於テ病氣其他正當ノ事故ニ依リ出頭セシメ難キトハ

第一項ハ戶長役場ニ第二項ハ施術醫ニ其事由ヲ申出ヘシ

一 戶長役場ヨリ種痘施術ノ通知ヲ受ケタルト

二 接種後醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受クヘキト

第十二條 種痘濟及天然痘濟證書ハ之ヲ保存シ置キ掛官吏ノ臨時點檢ニ供スヘシ

第十三條 種痘所ニ於テ種痘ヲ受クル者ハ渾テ無謝料タルヘシ

第十四條 種痘所諸費及種痘擔擧醫手當等ハ總テ町村費ヲ以テ支弁スヘシ

第十五條 種痘醫ハ毎月種痘セシ人員ヲ第三號書式ニ依リ製表シ翌月十日迄

ニ所轄町村戶長役場ニ差出スヘシ

第十六條 臨時官吏ヲ派遣シ種痘ノ實況ヲ監視シ又ハ種痘濟若クハ天然痘濟

證書ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第一號書式 用紙西洋紙

内徑長五寸

種痘醫若シ 割印ナスル トハ此所ニ 爲ス者トス	種痘濟證書	住所	何國何郡何村何番地住或寄留
	姓名	何府縣何(寄留人ナレハ原籍國郡區町村名 番地ヲ愛ニ記ス)族籍	何
戸小印ヲ 初治	年齡	何誰何男	何年號何月何日生
何國何郡何村何番地住或寄留	何國何郡何村何番地住或寄留	何國何郡何村何番地住或寄留	何國何郡何村何番地住或寄留

戸長ノ役印 ヲ以テ種 調査簿ト割 印ス	長	檢	同上	同上
押ス	印	印	印	印
種 痘 善 感	種 痘 再 濟	種 痘 三 濟	明治何年何月何日試種不感或善感	
何 誰 印	何 誰 印	何 誰 印	何國何郡何町何番地住或寄留	
種 痘 醫	種 痘 醫	種 痘 醫	種痘醫 何 誰 印	

第二號書式

用紙西洋紙 長六寸五分

天然痘濟證書

何國何郡何町何番地住或寄留

何縣(寄留人ナレハ原籍國郡町村)族籍

何 誰 何 誰 何 誰 何 誰

何年何月何日生

天然痘濟ニ相違無之候也

何國何郡何町何番地住或寄留

種痘醫或醫師 何 誰 印

明治何年何月何日

第三號書式 用紙美濃紙

種痘者居住 種別 感否

種痘人員月表

滿一	滿二	滿三	滿四	滿五	滿十	滿十五
年	年	年	年	年	年	年
以內	以內	以內	以內	以內	以內	以上
何	何	何	何	何	何	何
誰	誰	誰	誰	誰	誰	誰
印	印	印	印	印	印	印

合計

十九年甲第十二号ヲ以テ改正

第四編衛生

種痘規則附警察官注意方

○本乙第六十六號 明治十八年八月三十一日
今般避病院規則別紙之通被相定候條爲心得此段及通達候也

四區水上 警察署
曾根崎天王寺

避病院規則

第一章 構成

第一條 避病院ニハ左ノ職員ヲ置ク

豫防事務所員

巡查

醫員

調劑生

看病人

第二條 避病院内ニ左ノ三局ヲ置ク

庶務局

醫局

藥局

第二章 職務

第三條 豫防事務所員ハ左ノ職務ニ従事スヘシ

一 避病院ニ關スル一切ノ庶務ヲ處辨スルコト

二 諸費ヲ收支スルコト

三 看病人小使ヲ進退見テ具シ豫防事務所ヘ申告スルコト

四 患者ノ出入及轉歸ヲ豫防事務所ヘ報告スルコト

第四條 巡查ハ左ノ職務ニ従事スヘシ

一 院内ニ關スル諸般ノ取締ヲ爲スコト

二 看病人ヲ監督スルコト

三 看病人ニ於テ不都合ノ所爲アル乎又ハ患者ニ對シ不親切ノ所業アルヲ見認ムルトハ之ヲ譴責シ其譴責再度ニ及フモ尙悔悟ノ狀ナキモノハ其旨豫防事務所出張員ヘ告知スルコト

第五條 醫員ハ豫防事務所出張員及巡查ト氣脈ヲ通シ左ノ職務ニ従事スヘシ

一 患者ヲ診察治療シ且死体ヲ檢案スルコト

二 患者ノ飲食物ヲ檢査シ之ヲ許否スルコト

第六條 調劑生ハ醫員ノ指揮ニ從ヒ調劑ノコトニ従事スヘシ

第七條 看病人ハ豫防事務所員及巡查ノ指揮ヲ受ケ左ノ職務ニ従事スヘシ

一 患者ニ直接シ諸般ノ使役ニ従事スルコト

二 醫員ノ指示ニ依リ患者ノ藥用ヲ專任スルコト

三 患者ニ對シ不都合又ハ不親切ノ所業爲スヘカラサルコト

四 豫防事務所出張員又ハ巡查ノ許可ナクシテ猥リニ看病室ヲ離ルヘカラサルヲ

五 病室ハ時々掃除ヲ爲シ清潔ヲ旨トスルヲ

第三章 患者取扱及死屍處分心得

第八條 入院患者取扱及ヒ死屍ノ取片付方ハ總テ鄭重ニシ醫療向消毒隔離法等ハ一層注意スヘシ

第九條 虎列拉病患者ノ入院セルルハ其國郡區町村番地族籍職業氏名年齢病症等ヲ入院患者名簿ニ記入シ病性ノ劇易及ヒ男女ノ別ニ依リ其病室ニ入ラシムヘシ

第十條 看病人ハ重症ノ者二人輕症ノ者四人快復期ニ趣キシモノニハ六人ハ各一人ノ割合ヲ以テ之ヲ附シ適宜交代セシムヘシ

第十一條 患者ノ親戚亦ハ交誼アル者見舞或ハ死者ヲ吊センコトヲ望ムルハ之ヲ許スヘシ

但病室内ニ於テハ一切飲食ヲ禁シ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ出院ノ節ハ必ス消毒法ヲ行フヘシ

第十二條 前條ノ者看病ヲ爲サンコトヲ乞フルハ之ヲ許スト雖モ其員數ハ制限スルコアルヘシ

第十三條 患者若シ死亡シタルルハ速ニ屍室ニ移スヘシ

第十四條 患者病况危篤ト認ムルルハ速ニ戶長又ハ其家族ニ通知スヘキモノトス若シ死亡セシルハ入棺セサル前ニ其死体ヲ家族ニ示スヘシ

但通知後十二時間ヲ過ルルルハ之ヲ棺ニ収メテ相當ノ處分ナスヘシ

第十五條 旅人等ニシテ前條ノ手續ヲナス能ハサル場合ニ於テハ其罹病地ノ戶長立會ヲ要シ其實事ヲ証明セシメ然シテ原籍ノ戶長ハ照會スベシ

第十六條 前條ノ手續ヲ終ヘタル後巡查ノ護送ヲ要シ火葬場ニ送ルヘシ但遺骨ヲ保存セシメ請求者ニ下附スルモノトス

第十七條 入院患者又ハ死亡全治等ノ者有之節ハ前日分ヲ翌朝迄ニ豫防事務所該事務所設置アラサルルハ衛生課ヘ報知スヘシ

第十八條 入院患者ノ携帶品ハ消毒法施行ノ上事務所ニ預リ置品目帳ニ記載シ退院等ノ節本人又ハ家族ヘ引渡シ其帳簿中ヘ受取ノ証印ヲ取り置クヘシ

第十九條 死体ハ可成他ノ患者等ノ目ニ觸レザラシムヘシ

第四章 消毒品取扱心得第

第二十條 消毒セントスル物品ヲ患者ト共ニ送附シ來ルルルハ之ヲ受取其所有者ヘ品名數個ヲ記シタル領収証書ヲ渡ス可シ

第二十一條 消毒シテ再用スヘキモノト認ムルルルハ十分消毒法施行ノ上最前渡

シタル領收書ト引換還付スヘシ
第廿二條 消毒法ハ豫防心得書第六十二條以下第七十九條迄ヲ適宜參酌シテ
之ヲ施行スヘシ

第廿三條 消毒法ハ總テ丁寧ナルヲ要スルヲ以テ始終注意シテ從事スヘシ尤
其疑難ニ係ルモノハ醫師ニ質議シ十分行届繰取扱フヘシ

第廿四條 又入院患者及ヒ入院中死亡セシモノ、物品焼却豫防心得第五十六
條及第六十一條ニ據リ行フモノトス又消毒等ハ第廿四條ノ例ニ準スヘシ
但シ備附品ノ燒却ハ委員長ノ決ヲ採ルモノトス

第四章 牛馬傳染病及家畜

第一款 牛馬傳染病取扱手續

●甲第二百二十三号 明治十五年十一月廿一日

牛馬傳染病取扱手續別紙之通制定候條此旨布達候事

但シ明治九年三月當府第六十九号並ニ十三年八月當府地第八十七号及舊堺
縣明治九年乙第十五号達ハ廢止トス

牛馬傳染病取扱手續

第一條 畜牛馬發病ノ節ハ獸醫ノ診察ヲ請ヒ傳染病ノ徵候アラハ速ニ戸長ヘ
届出ヘシ尤モ牛馬死亡セハ傳染病ト否トニ拘ハラズ戸長ヘ届出ヘシ

第二條 戸長ニ於テハ獸醫ノ容体書症候經過前後及ヒ療法ヲ詳記スヘシヲ徵シ傳染病ナルカ或ハ其
類似ノ疑アルトハ速ニ獸醫ニ通議シテ其傳染ヲ豫防シ一面ハ郡區役所及ヒ
最寄警察官ヘ届出テ指揮ヲ乞ヒ且四隣町村ヘモ報告スヘシ

但傳染病ニアラサルモノハ診斷書ヲ添ヘ單ニ郡區役所ヘ届出ヘシ

第三條 郡區役所ニ於テハ戸長ノ届書ヲ熟閱シ若シ傳染病ナルカ或ハ其類似
ノ疑アルトハ速ニ府廳ニ急報シ一面ハ警察官ニ通議シテ第四條以下ニ照シ
豫防及撲滅ノ處置ヲナスヘシ

但傳染病ニアラサルモノハ一ヶ月分取纏府廳ヘ進達スヘシ

第四條 傳染病發起ノ地ヘハ直ニ巡查ヲ派遣シ諸般ノ取締ヲナサシムヘシ

第五條 畜牛々疫(リンドルベスト)ノ徵候ヲ發シ他牛ノ其毒ニ感スルヲ認ム
ルトハ獸醫ヲシテ証明セシメ郡吏及警察官立會其輕重ヲ問ハス直ニ之ヲ撲
殺スヘシ

第六條 牛疫感染ノ牛ヲ撲殺スルトハ一頭ニ付金三十圓以下ノ代價ヲ下渡ス
ヘシ

但牛主ヘ償付スル金額ハ別途相渡スヘキニ付獸醫ノ診斷書牛主ノ姓名等
詳細調書相添ヘ受取方申立ヘシ

第七條 渾テ傳染病ノ屍体ハ六尺以上地下ニ埋没スヘシ尤牛疫屍体ニ限リ必

十五年甲第百二十九號ヲ以第六條ヲ改正ス

ス燒棄ルカ或ハ一丈二尺地下ニ埋没スヘキモノトス
 但場所ハ人家距離三町以上適宜ノ地ニ於テスヘシ
 第八條 牛疫發起ノ節ハ其場所ヨリ凡方二里以内ノ地ヲ限リ道筋ニ左ノ標ヲ
 建設シ牛馬ノ限外ニ出テ或ハ限内ニ入ルヲ禁スヘシ假令病毒撲滅ノ後タリ
 ト雖モ尙三ヶ月ヲ經サレハ其出入ヲ許サス
 但四方十里以内畜牛ナキ地ニ往復或ハ移轉ハ此限ニアラス
 二尺五寸

何郡何村何番地ニ於テ
 牛疫發見候條此場所ヨ
 リ牛馬ノ出入ヲ禁ス
 一
 尺五寸
 年月日
 大阪府

第九條 第八條ノ場合ニ於テ運搬ノ不便ヲ來シ彼我營業上甚シキ障害アリト
 認ムルキハ其實況ヲ具シ速ニ府廳ヘ伺出ヘシ
 第十條 標札ヲ建設スヘキ地他管下ニ跨ルキハ當管下ノミヘ建札ヲ設ケ其跨
 ル部分ハ距離詳細取調速ニ府廳ヘ届出ヘシ

第十一條 標札ハ適宜之ヲ調製シ其都度代價請取方申出ヘシ

●甲第十七號 明治十六年四月十四日

明治十五年^{十一月} 當府甲第百二十三號布達但書ノ次第モ有之候處從來牛疫検査
 掛及牛病診斷醫相勤居候者ハ自今免許獸醫ト可心得此旨布達候事
 但本文ニ基キ繼續開業候向ハ本月限リ當廳ヘ届出ヘシ

●示第二百三十五號 明治十六年十月十一日

斃牛馬届書ニ添ユヘキ容休書ノ義ハ明治十五年本府甲第百二十三號布達牛馬
 傳染病取扱手續第二條ニヨリ症候經過療法等ヲ詳記スヘキ筈ノ處症候經過等
 一モ記セサルモノ往々有之不都合ノ義ニ候條爾後ハ必ズ右ニ照準シ詳細記載
 スヘシ此旨告示候事

●乙第八十四號 明治十七年六月廿一日

郡區役所 研津園四
 戶長役場 區ヲ除ク

牛馬傳染病流行ニ際シ其消毒豫防ニ要スル藥品ハ一般之ヲ下渡シ又消毒法ヲ
 施スニ當リ病獸ニ屬セシ器具燒棄床下土ノ掘採等ヲ要スル場合ニ於テ其費用
 ニ耐サルモノニ限リ相當費用ヲ可下渡候條戶長ニ於テハ篤ト其身元ヲ取調實
 際ノ狀況ヲ具シ郡區役所ヲ經テ本人ノ請求書ヲ可差出此旨相達候事

第二款 牛馬傳染病豫防心得

●諭第二號

明治十七年五月十日

牛馬傳染病豫防心得別紙ノ通相定候條厚ク注意可致此旨告諭候事

凡ソ牛馬ノ傳染ハ其數多シト雖モ病毒最モ劇烈ナルモノハ牛馬ノ炭疽熱牛ノ肋膜兼肺炎馬ノ震盪多期及華爾細ナリトス而シテ牛疫ノ如キハ之カ流行ニ際シ豫防ヲ怠ルトハ其毒甚シク蔓延シ終ニ牛ヲ蕩盡スルニ至ルヘシ注意スヘキヲナリトス因テ豫防法ノ概要ヲ左ニ示ス

一傳染病或ハ其疑アル病發起ノ節ハ其看護人ノ外ハ可成病廐ニ出入スヘカラス又看護人ハ他廐ニ通行スヘカラス

一戸數頭ノ牛馬ヲ畜養スルモノハ若シ一頭ニ傳染病ノ徵アルモハ健全ノモノト同居セシムヘカラス

一牛疫感染ノ牛ハ必ス之ヲ撲殺スヘシ

一傳染病發起ノ間アルモハ其四隣ニ於テハ一層舍内ヲ清潔ニシ飼方ニ注意シ且時々廐舍ノ内外ニ格魯兒加爾幾ヲ撒布スヘシ

一死体ヲ取片付ケルニハ燒棄ルヲ最モ良トス之ヲ埋没スルモハ六尺乃至一丈二尺ノ深ニ穴ヲ掘リ石灰ヲ撒布シ死体ヲ下シ又石灰ヲ撒布シテ後土ヲ以テ覆フヘシ

但皮膚ハ縱横ニ截切スヘシ

一傳染病牛馬廐及ヒ之ニ用ヒタル器具ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ用ニ

供スヘカラス

一傳染病牛馬寐糞糞尿等ハ燒棄ルカ又ハ格魯兒加爾幾溶液ヲ灌キ掛クヘシ廐舍ノ床ハ上層ノ土ヲ掘採リ寢糞同様取扱フヘシ
尤板敷石敷又ハ漆喰ハ此限リニアラスト雖モ板ノ朽チタルモノハ燒棄ルヲ良トス

但之ヲ行フノ后ハ能大氣ニ曝スヘシ

一傳染病牛馬ニ用ヒタル器具ハ廐舍同様取扱フヘシ尤モ金屬製ノモノハ一度之ヲ熱スヘシ

一傳染病牛馬ヲ取扱ヒタル場所ハ上層ノ土ヲ掘リ採リ埋没スルカ又ハ格魯兒加爾幾ヲ撒布スヘシ

一傳染病死体寢糞土等ヲ埋没シタル場所ヘハ標札ヲ建置キ牛馬ヲ立寄ラシムヘカラス

一傳染病牛馬ヲ取扱ヒタル人ノ衣服ハ可成之ヲ取換ニヘシ

一前條格魯兒加幾ニハ石炭酸代用スルモ良トス

一一層確ナル消毒法ヲ行ントスルニハ前ノ如ク洗ヒタル后廐舍ヲ閉チ格魯兒瓦期ヲ以テ蒸シ器中ニ格魯兒加示幾ヲ盛り硫酸ヲ灌ク后開放シテ空氣ヲ流セシムヘシ

一廐舍器具等ハ消毒法ヲ行フト雖モ可成永ク他牛馬ノ用ニ供セサルヲ良トス

○本甲第四百號

明治十七年九月十一日

警察署

近頃大和地方ニ於テ牛馬炭疽熱流行候處該病タルヤ自然人類ニモ感染シ實ニ恐ル可キノ症タリ又發病アリ豫后其斃ル、ニ至ル迄ノ病狀左記之通ニ有之候條厚ク注意可致爲心得此段及通達候也

炭疽熱ハ牛馬ノ如キ草食動物ニ發シ他動物其毒ニ感ス（人類モ亦タ此毒ニ感ス）ル劇烈ノ傳染病ナリ而シテ其原因ハ一種特異ノ傳染毒（固性）ニシテ飲食物ノ不適不潔等其發生傳播ヲ助ク人ノ此症ニ感スルヤ豫后大概不食ニシテ危險ノ病ヲ發ス此症ノ徵候タル各動物一定セス或ハ俄然卒倒シ眼球赤色ヲ呈シ口鼻肛門ヨリ血液ヲ流出シ二三分時間ニシテ斃ル、モノアリ

或ハ初食思減少シ反芻絶止シ鬱憂ノ狀ヲ呈シ体温元進シ或ハ興奮鬱憂交來リ一起一倒シ呼吸促進シ口ヨリ泡沫又ハ血液ヲ出シ終ニ二三時間ヲ經テ斃ル、モノアリ

上記ノ場合ニ於テ凡テ体温非常ニ増進スルモノトス前ノ如ク經過急ナラスシテ三四日ヲ經テ斃ル、モノアリ又体中諸部ニ大小ノ腫脹ヲ發シ漸々膨大シ体温元進シ食思減少或ハ欲乏便秘シ腫脹部ハ初メ指壓スルニ疼痛ヲ發スト雖后ニハ痛ヲ發スルコトナシ斯ノ如キモノハ通常三四日乃至一週間ヲ經テ斃ル、モノトス

炭疽熱ニ罹リ斃レタル死体オ見ルニ口鼻肛門等ヨリ血液若クハ赤色ノ液汁ヲ出シ皮膚ヲ剝クニ皮下ノ靜脈ヨリ暗黒色ノ血液ヲ流出シ筋肉ハ暗赤色暗褐色暗紫色若クハ蒼白色ヲ呈ス臟器ハ都テ多少膨大シ就中膨大甚シキハ脾臟ニシテ時トシテ通常三四倍ニ至ル

第三款 家畜ニ關スル事

●天第四百四十八號 明治十二年六月廿七日

畜犬取締ノ爲課稅ノ儀明治九年十一月當府第三百六號ヲ以テ及布達置候處本年六月三十日限右稅金相廢候ニ付テハ向後畜犬致度者ハ從來下渡シノ首革ニ準シ新調附看致シ可置此旨管内無漏相達候事

○無號 明治十四年十一月廿七日 各 署

畜犬取締廢セラル、ト雖后在野犬獲殺ス可キトハ斃牛社ニ命シ撲殺致サセ不苦旨明治十二年七月十二日付甲第八十九號ヲ以テ及御回達置候處自今在犬ヲ除クノ外獲殺セサル事ニナシ斃牛社ヨリ申出ルモ無論許可セサル様相成度此段申進候也

●第三百一十一號 明治六年八月五日

市中並市中接近之村家ニ於テ鶏家鴨ノ類ヲ養ヒ候モノ銘々屋敷内ニ隙地等所持無之ヨリ不得止軒下ニ飼置候儀ニ可有之然ルニ近來猥ニ籠ヲ路上ニ持出シ

或ハ飼放シニ致シ候向モ間々有之通路ノ妨ニ相成ノミナラヌ糞穢不潔ノ通路ニ狼籍タル尤モ人身健康ノ障害トモ相成候儀ニ付向後路上飼放ハ勿論籠ヲ路上ニ置候儀堅ク差止候事

右ノ趣市中並市中接近ノ郡村ヘモ無洩相達スル者也

第五章 醫業

第一款 開業醫規則

●甲第五十四號 明治十六年八月十一日

開業醫規則別冊之通創定本年九月一日ヨリ施行ス

但當府明治九年三月四日無號同十二年^十天第三百六十號同十五年^八甲第八十四號布達同十六年五月十一日無號達及舊堺縣明治十四年^二甲第九號布達ヲ除ク外此規則ニ關スル從前布達並達等ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

開業醫規則

第一條 醫師ニシテ當府下ニ開業セント欲スル者ハ履歷書並ニ免許狀寫ヲ添ヘ届書^{〔第一号〕}ヲ差出スヘシ

第二條 ^{〔十七年甲第六十八号ヲ以テ刪除ス〕}

第三條 醫師ニシテ種痘術ヲ爲サント欲スル者ハ其旨届出ツ可シ

但シ齒科整骨科専門ノ者ハ本文ノ限リニ非ラス

十七年甲第六十八号ヲ以テ第一條申若干字ヲ刪除

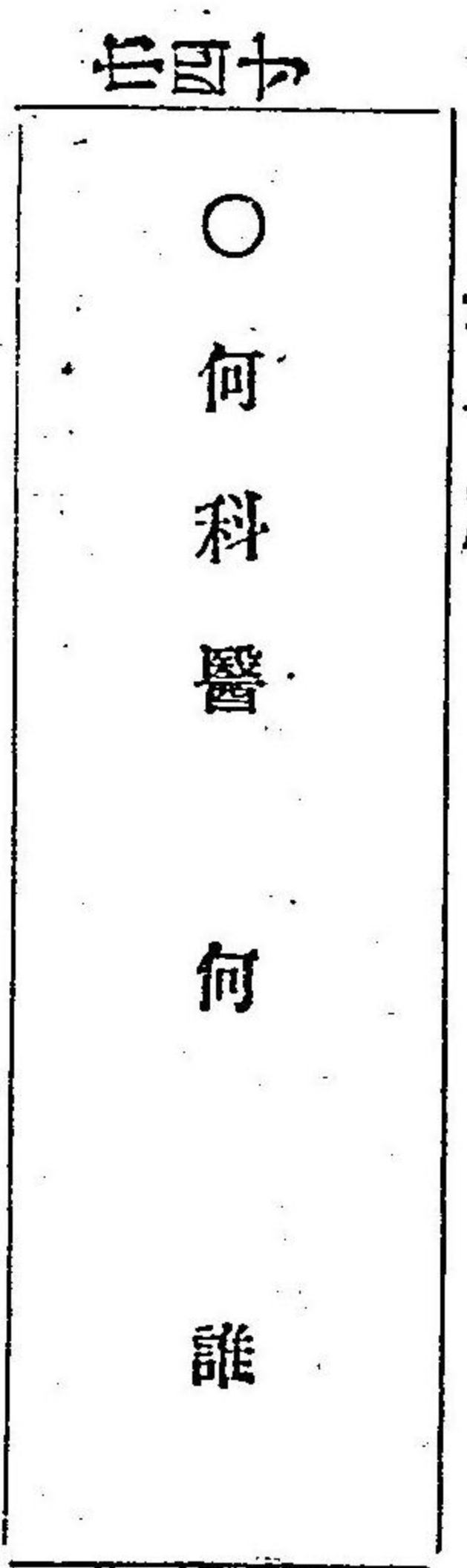
第四條 同上

第五條 出張診察所ヲ設ケント欲スル者ハ其位置并ニ定日ヲ記シタル願書^{〔式〕}ヲ差出ス可シ

第六條 開業醫ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 左ノ雛形ノ門標ヲ掲出スル

長一尺



二 處劑錄ヲ備ヘ置キ患者ノ住所職業氏名年齢及其病名處方轉歸等ヲ登記スル

三 處方書ヲ與フルルハ患者ノ住所氏名年齢年月日及ヒ自己ノ生所氏名ヲ記シ捺印スル

四 中毒又ハ藥物ノ誤用等ニ依リ死ヲ致シタル者又ハ縱令ヘ死ニ至ラサルモ衛生上等閑ニ附スヘカラサル病者ヲ診斷シタルルハ直ニ届書^{〔式〕}ヲ差出ス

十八年甲第百二十三号第九項ヲ
刪リ以下換上ク
十八年甲第百七
号ヲ以テ追加

- 五 死体検査流産兒モ包含スチ爲シタルハ屆書死体ハ第六号流産兒ハ第七号書式チ其家人ニ與フル
- 六 死体患部ヲ解剖セント欲スルハ其家族家族アルモ幼稚又ハ家族ナキハ親戚ニ名以上ノ承諾証書ヲ添へ願出ル
- 七 前項ノ場合ニ於テ若シ家族親戚等ナシト雖モ死者生前患部ノ解剖ヲ委嘱スルコトアルハ其事由ヲ記載シタル書面ニ本人及ヒ近隣二名以上ノ連署ヲ以テ願出ル
- 八 施療患者死亡シタルハ六傳染病ニシテ既ニ其死屆書第八号書式チ其家人ニ與ル
- 九 變痘患者ヲ診斷シタルハ其住所氏名年齢職業等ヲ詳記シ其時々速ニ届出ル
- 十 十九年甲第三十号ヲ以テ刪除
六号ヲ以テ刪除
(全上)
- 十一 六傳染病患者ノ届出并ニ其取扱方ハ明治十五年八當府甲第八十四號布達ニ據ル
- 十二 出張診察所ハ左ノ離形ノ門標ヲ掲出スル
- 十三 長一尺

十八年甲第百廿三号ヲ以テ改正

十九年甲第三十九号ニテ第一項改正

三三ヤ

何科醫
○ 出張診察所 何 誰
出張定日ヲ爰ニ記ス

木製

十四 出張診察所ノ位置或ハ定日ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタルハ其旨速ニ届出ル

十五 管ノ内外ヲ問ハス總テ轉居シタルハ其旨速ニ届ケ出ル

第十七條 種痘術ヲ爲ス醫師ハ左ノ離形ノ門標ヲ掲出スヘシ

長一尺

三三ヤ

○ 種痘一醫

木製

第八條 開業醫ハ左ノ事項ヲ禁ス

- 一 齒科整骨科ノ専門醫ニシテ他科ノ治療ヲ爲ス事
- 二 診察ヲ爲カ、ル患者へ藥劑處方書診斷書若シハ容体書ヲ與フル
- 三 病況至急ヲ要スルノ外他醫ノ施治ニ係ル病者へ猥リニ藥劑ヲ投スル

十七年甲第六十八号ヲ以テ改正

- 四 醫術免許狀ナキ者へ治療ヲ專任スル
- 五 藥學ノ大要ヲ辨セサル者へ調劑ヲ專任スル
- 六 免許狀ヲ貸與又ハ讓與スル
- 七 出張診察所ニ於テ定日外診察又ハ調劑スル
- 第九條 總テ願書第五條第六條ノ第六項第七項ヲ云フハ正副二通免許狀書換等ニ係ルハ三通届ケ書第一條第三條第六條ノ第四項第十四項第十五項ヲハ一通ヲ作り其町村戸長ノ與書ヲ以テ所轄郡區役所ヲ經由シ當廳へ差出スヘシ

(第一號書式)

醫術開業届

何國何郡何町何番地住或ハ寄留
 何府寄留人ナレハ原籍ノ國郡縣區町村名番地ヲ爰ニ記ス族籍或ハ何誰
 何男又ハ兄弟等

何科醫

何 誰

齡何十何年何ヶ月

私儀今般肩書ノ地ニ於テ開業可仕ニ付免許狀寫并ニ履歷書相副此段御届申上

候也

明治何年何月何日

右届出ニ付與書仕候也

右

何 誰 印

右何町衛生委員

何 誰 印

右何町戸長

何 誰 印

大阪府知事何

誰殿

(第四號書式)

出張診察所開設願

何國何郡何町何番地住或ハ寄留
 何府寄留人ナレハ原籍ノ國郡縣區町村名番地ヲ爰ニ記ス族籍或ハ何誰何
 男又ハ兄弟等

何科醫

何 誰

私儀今般何國何郡何町何番地(或ハ何誰方又ハ貸家)へ隔日(或ハ毎月何曜日

十七年甲第六十八号ヲ以テ第二号三号十号書式ヲ刪ル

出張ノ爲メ診察所開設仕度尤モ定日外診察調劑不致ハ勿論醫術免許狀ナキ者
ナシテ代診等決シテ爲致間敷候ニ付御許可相成度此段奉願候也

明治何年何月何日
右出願ニ付奥書仕候也

何 誰印

右何町 戸長

何 誰印

大阪府知事何 誰殿

(第五號書式)

中毒(或ハ藥物誤用)患者届

何國何區何町何番地住或ハ寄留

何縣(寄留人ナレハ原籍ノ國郡)族籍職業或ハ

何誰父母兄弟姉妹何女男等

何 誰

齡何十何年何ヶ月

何々

何品何程

一中毒(藥物誤用)ノ年月日
一品種并ニ用量

一症候

何々

一經過

何々

一療法

何々

一轉歸

何々

右御届申上候也

何國何區何町何番地住或ハ寄留

何科醫

何 誰印

明治何年何月何日

大阪府知事何 誰殿

中毒品又ハ誤用ノ藥物現存シ其性質不分明ナルモハ硝子壘ニ容レ腐敗ヲ防ク
爲メ惡爾加兒若クハ眞利斯林ニ浸シ密閉シ之ヲ届書ニ副ユルモノトス

(第六號書式)

死體檢案届

死者

何々國何々郡何々町何々番地住或ハ寄留

何々縣(寄留人ナレハ原籍ノ國郡)族籍或ハ何ノ誰

父母兄弟姉妹何女男等

産婦					産婦住所氏名	死産兒檢案届
既往ノ病症	妊娠ノ月數	體格	職業	年齢		
					何々國何々郡何々村何々番地住或ハ寄留 <small>何々府(寄留人ナレハ原籍ノ國郡)族籍或ハ何ノ誰</small> 何々縣(區)村町名番地ヲ爰ニ記ス)妻母姉妹何々女等 何々誰	

(第七號書式)

死産兒檢案届

住所氏名						
年	職	死亡ノ原因	身体ノ現况	經過ノ時間	明治何年何月何日	大阪府知事何誰殿
					右何々云々ニ依リ死亡セシ者ト檢案仕候也 何々國何々郡何々村何々番地住或ハ寄留 何々科醫 何々誰	何 誰

(第八號書式)														
死亡届	戸長檢印 衛生委員檢印	右何々云々ニ依リ <small>流産墮胎</small> セシ者ト檢案仕候也 何々國何々 <small>郡區</small> 何々 <small>町村</small> 何々番地住或ハ寄留 明治何年何月何日 何 誰 大阪府知事何誰殿												
		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">産</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">兒</th> </tr> <tr> <td style="width: 25%;">現在ノ病症</td> <td style="width: 25%;">男女ノ區別</td> <td style="width: 25%;">經過ノ時間</td> <td style="width: 25%;">兒体ノ現况</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>			産		兒		現在ノ病症	男女ノ區別	經過ノ時間	兒体ノ現况		
産		兒												
現在ノ病症	男女ノ區別	經過ノ時間	兒体ノ現况											
何々國何々 <small>郡區</small> 何々 <small>町村</small> 何千何百何十番地住或														

病名	死亡月日	職業	年齢	右者私施治ノ患者ニ候處死亡候間此段御届申上候也 何々國何々 <small>郡區</small> 何々 <small>町村</small> 何千何百何十番地住 或寄留 科 醫
				ハ寄留 何 <small>府</small> 寄留人ナレハ原籍ノ國郡族籍或何誰父母兄弟姉妹何 <small>男</small> 等 何 誰

明治何年何月何日

何 誰 印

大阪府知事何誰殿

(第九號書式)

天然痘濟証書

何國何郡何町何番地住或ハ寄留

何府(寄留人ナレハ原籍ノ國郡)族籍職業何誰

何縣(區町村名番地ヲ爰ニ記ス)何男女 誰

何年号何月何日出生

右天然痘濟ニ相違無之候也

何國何郡何町何番地住或ハ寄留

何科醫

何 誰 印

明治何年何月何日

(第十一號表式)

明治何年

脚氣患者月表

何國何郡何町何番地

何月中

醫師 何 誰 印

族籍	生國	患者發病ノ地名ノ地名	患者居住ノ地名	患者居住以來ノ年月	職男未婚患者	年齡	初感或再感	經過月日	轉歸
華國何府縣何區何町村	何國何郡何町何番地	何府縣何區何町村	何郡區何町何丁	何年何月	農男未婚何誰	何年何月	初	自何月何日至何月何日	治
士國何府縣何區何町村	何國何郡何町何番地	何府縣何區何町村	何郡區何町何丁	何年何月	商女既婚何誰	滿何年何月	再	自何月何日至何月何日	死
平國何府縣何區何町村	何國何郡何町何番地	何府縣何區何町村	何郡區何町何丁	何年何月	職男未婚何誰	何年何月	三	自何月何日至何月何日	未

第二款 私立病院規則

●甲第五號

明治十八年二月二日

明治十六年八月當府甲第五十五號布達私立病院規則別冊ノ通改正ス

但從前許可ノ私立病院或ハ其支院ニシテ本則ニ該當セサルモノハ來ル六月三十日迄ニ改正シ其旨届出ヘシ

私立病院規則

第一條 私立病院ヲ設置セントスルモノハ左ノ各項ヲ具備シ別紙書式(第一號)

ニ準シ構造ノ圖面ヲ添ヘ願出ツヘシ

一 病院ニ適スヘキ土地

二 患者ノ療養ニ適スヘキ構造(病室ハ少クモ五室其疊數ハ合計三十疊以上)

三 院長(院長若クハ醫員ヨリ兼メテ得)院長及二名以上ノ醫員

四 調劑生二名以上

五 看病人三名以上

第二條 支院ヲ設ケントスルモノハ前條ニ準シ願出ツヘシ尤本院ノ他府縣下ニアルモノハ其願書及指令寫ヲ添付スヘシ

但院主院長ハ時宜ニ依リ本院ヨリ兼務スルヲ得

第三條 病院及支院ノ外患者ヲ宿泊セシムル目的ヲ以テ種々ノ名義ヲ附シ治療所ヲ設クルヲ得ス

但病院若クハ支院ノ四隣ニ該院附屬ノ病室ヲ設クルハ本文ノ限りニアラス

第四條 私立病院及其支院ハ左ノ門標ヲ掲クヘシ

寸法 私

適宜 立 何 病 院 (支院)

本院ノ他管ニアルモノハ何府縣ト肩書スヘシ

第五條 六傳染病中虎列刺發疹室扶私痘瘡ハ入院セシムヘカラス

但腸室扶私赤痢實布埜利亞ハ傳染病室ノ設ケアルモノニ限り入院セシムルヲ得ルト雖モ他ノ患者ト混同スヘカラス

第六條 傳染病室ヲ設ケントスルモハ普通病室ト隔離シタル場所ヲ撰ミ願出ツヘシ

第七條 (十九年甲三十號ヲ以テ刪除)

第八條 位置構造又ハ院則ヲ變更セントスルモハ其事由ヲ詳記シ願出ツヘシ

第九條 院長醫員ノ異動及給額ノ増減又ハ開廢休院等ノ節ハ其旨速ニ届出ツ

シ其試驗科目左ノ如シ

- 一 産科ニ緊要ナル解剖學及生理學ノ大要
- 二 産科技術并ニ妊婦初生兒處置ノ大要

第二條 當府ノ免許ヲ得テ産婆術ヲ開業セントスル者ハ其免許願書〔第二號書式〕并

ニ左項ニ適スル修業履歷書〔第二號附屬書式ノ一〕授業醫師及産婆ノ保証書〔第二號附屬書式ノ二〕及

三 子副ノ願出ヘシ

一 産婆術及ヒ初生兒攝養法大要ヲ修熟シタルヲ

二 滿一ケ年以上産婆ニ就キ産婦十八人以上分娩ヲ助手セシヲ

第三條 産婆タルヲ得サル者左ノ如シ

一 年齢二十五年未滿ノ者

二 墮胎ノ罪ニ依リ處刑ヲ受ケタル者

第四條 内務省免許ノ産婆管内ニ轉籍又ハ寄留シ開業セントスル者ハ其届書

ニ免許狀寫ヲ副ヘ差出スヘシ

第五條 内務省又ハ當府ノ開業免許狀ヲ所持セサル者ハ管内ニ於テ營業スル

ヲ許サス

但シ他府縣免許ノ者ニシテ一時産家ノ需ニ應シ取扱ヲナスハ本條ノ限り

ニアラス

第六條 産婆ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 左ノ雛形ノ門標ヲ掲出スルヲ

長一尺



二 十九年甲三十
六号ヲ以テ删除

三 免許狀ヲ失損シ或ハ氏名ヲ改ムル等ノ節ハ其旨詳記シ更ニ下附又ハ書替ヲ願出ルヲ

四 廢業死亡等ノ節ハ速カニ其旨届出免許狀ヲ返納スルヲ

五 管内ノ轉居ハ其時々届出ツルヲ

六 内務省免許ノ者他府縣ニ轉籍又ハ寄留スルキハ速ニ其旨届出ツルヲ

七 當府免許ノ者他府縣下ニ轉籍又ハ寄留之節ハ速ニ其旨届出テ尤モ轉籍ノ者ハ免許狀ヲ返納スルヲ

第七條 産婆ハ左ノ事項ヲ禁ス

一 産科器械ヲ使用スルヲ

- 二 醫師ノ指示ニ從ヒ幫助ヲナスノ外妄リニ手術ヲ施ス
- 三 藥劑ヲ投シ又ハ處方ヲ指示スル等總テ醫師ニ紛シキ所業ヲナス
- 四 猥リニ食餌ノ適否等無稽ノ説ヲ唱フル
- 五 免許狀ヲ貸與若シハ讓與スル
- 六 分娩ニ際シ無免許ノ者ヲ己レニ代リ取扱ハシムル
- 第八條 總テ願伺書ハ正副二通〔内務省免許ヲ得ントスル者又ハ其免許狀ノ書替等ヲ願フ者ハ三通〕届書ハ一通ヲ作り其町村戸長ノ奥書ヲ以テ所轄郡區役所ヲ經由シ當廳ヘ差出スヘシ
- 第九條 此規則ニ違背シタル者及本業上ニ關シ處刑ヲ受ケタル者ハ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

(第一號書式)

産婆術開業試験願

何國何郡何町何番地住或ハ寄留
府縣(寄留人ナレハ原籍ノ國郡)區町村名番地ヲ爰ニ記ス 族籍職業何誰
 母或ハ妻妾姉妹又ハ長次女等
 何 誰

齡何十何年何ヶ月

私儀産婆術開業致度ニ付御試験ノ上内務省免許狀御下付相成度修學歷書并

ニ醫師ノ授業証書相副此段奉願候也

右

明治何年何月何日

何 誰 印

右出願ニ付取調候所産婆規則第三條二項ニ抵觸ノ者ニ無之候依テ奥書仕候也

右何町戸長

何 誰 印

大阪府知事何 誰 殿

(修學歷書並ニ授業証書ハ別ニ書式ヲ附セス) 普通ノ例ニ依リ記載添付スルモノトス

(第二號書式)

産婆術開業免許願

何國何郡何町何番地住或ハ寄留
府縣(寄留人ナレハ原籍ノ國郡)區町村名番地ヲ爰ニ記ス 族籍職業何誰
 母或ハ妻妾姉妹又ハ長次女等
 何 誰

齡何十何年何ヶ月

私儀産婆術開業致度ニ付當府免許狀御下付相成度履歷書及授業醫師并ニ産婆ノ保証書相添此段奉願候也

明治何年何月何日

何 誰 印

右出願ニ付取調候處産婆規則第三條二項ニ抵觸ノ者ニ無之候依テ奥書仕候也

右何町 戸長

何 誰 印

大阪府知事何 誰 殿

(第二號附屬書式ノ一)

履 歷 書

何國何郡何町何番地住或ハ寄留

何縣(寄留人ナレハ原籍ノ國郡)族籍職業何誰

母或ハ妻妾姉妹又ハ長次女等

何 誰

何年號何月何日出産

一墮胎ノ罪ヲ犯シ處分ヲ受ケンコ無之

一何年號何月何日ヨリ何年號何月何日迄何縣何國何郡何町何番地住(内務省 免許 何府縣)

何法内外科(或ハ産科)醫何誰ニ從ヒ産婆術及初生兒攝養方法ノ大要ヲ修業

ス

一何號何月何日ヨリ何年何月何日迄何縣何國何郡何町何番地住(内務省 免許 産婆 何府縣)

何誰ニ就キ産婦何人分娩ノ助手ス

一何々前項ノ外實地修學ノ履歴アラハ漏サス爰ニ記ス

右之通ニ候也

右

何 誰 印

明治何年何月何日

大阪府知事何 誰 殿

(第二號附屬書式ノ二)

保 証 書

何國何郡何町何番地住或ハ寄留

何縣(寄留人ナレハ原籍ノ國郡)族籍職業何誰

母或ハ妻妾姉妹又ハ長女等

何 誰

齡何十何年何ヶ月

一何年號何月何日ヨリ何年號何月何日迄産婆術實地ニ於テ教授シ産婦何人分

娩ノ助手セシム

右相違無之候也

第二條 鍼灸術ヲ開業セントスルモノハ別紙書式ニ因リ修業履歷書ニ同業者
二名以上ノ保證ヲ受ケ其師ノ授業證書ヲ添ヘ願出免許狀ヲ受ク可シ
但滿二十年以上ノ者ニアラサレハ新ニ開業スルヲ得ス

第三條 醫師治療中ノ患者ハ其醫師ノ指圖ヲ受ケスシテ施術ヲ爲スヘカラス
第四條 藥劑ヲ投シ又ハ水蛭ヲ貼シ或ハ放血スル等醫師ニ紛ハシキ所業ヲ爲
ス可カラス

第五條 免許狀ヲ貸借又ハ讓與スヘカラス
第六條 營業者ハ左ノ門標ヲ掲クヘシ

長 一 尺

三 四

鍼(灸)術營業 何 誰

木 製

第七條 免許狀ヲ毀損亡失シ若シハ氏名ヲ改メタル等ノ節ハ其旨詳記シ書換
又ハ更ニ下付ヲ願出ツヘシ

第八條 廢業死亡又ハ他府縣ヘ轉籍ノ節ハ其旨ヲ記シタル届書ニ免許狀相添
ヘ差出スヘシ

第九條 管内ノ轉籍寄留ハ其都度速ニ届出ヘシ

第十條 營業停止ノ處分ヲ受ケタルトハ其旨詳記シタル届書ニ免許狀相添
差出スヘシ

第十一條 總テ願書ハ二通届書ハ一通ヲ作り其町村戸長ノ奥印ヲ得所轄郡區
役所ヲ經テ差出スヘシ

第十二條 此規則(第十一條除ク)ニ違背スル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

第十三條 營業上ニ依リ違警罪以上ニ處セラレタルモノハ所犯ノ情狀ニヨリ
營業ヲ停止スルコトアルヘシ

別紙書式

用紙美濃紙

鍼(灸)術營業願

大阪府何國何郡何町村何番地住(寄留)

族籍(寄留)ハ原籍ヲモ爰ニ記ス

氏 名

生年月

當府下何郡區何町村何番地ニ於テ鍼灸術營業仕度候間免許狀御下付被下付度
修業履歷書相添ヘ此段奉願候也

右

年月日
右願出候ニ付奥印仕候也

氏名印
右何町戸長
氏名印

大阪府知事何謙殿

第五款 入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則

甲第二十六號 明治十八年四月十七日

入齒齒抜口中療治接骨營業者取締規則別冊之通相定メ本年六月一日ヨリ施行候條從來之營業者ニシテ爾後尙ホ當府下ニ於テ營業セントスルモノハ修學履歷書相添へ來ル五月三十一日迄ニ願出免許狀ヲ受クヘシ

但接骨ハ從來ノ整骨營業者ニ限リ免許狀下附可致候條其免狀書換ノ義ヲ本度期日迄ニ願出ヘシ且明治十六年九當府甲第七十號布達中(整骨)ノ二字刪除ス

入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則

第一條 入齒齒抜口中療治接骨等ノ營業ハ免許狀ヲ所持スル者ニ非ラサレハ之ヲ許サス

第二條 前條ニ掲クル營業ヲナサントスル者ハ明治十六年十月 太政官第三十四

號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經免許狀ヲ受クヘシ

第三條 他府縣ニ於テ第一條ニ掲クル營業ノ許可ヲ得タル者當府下ニテ營業セントスルホハ修學履歷書及其免許証寫相添へ願出免許狀ヲ受クヘシ

第四條 營業者ハ左ノ門標ヲ掲クヘシ
長 一 尺

三 大阪府免許	木 製
四 入齒或ハ何營業	何 誰

第五條 免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名ヲ改メタル等ノ節ハ其旨詳記シ書換又ハ更ニ下付ヲ願出ヘシ

第六條 廢業死亡又ハ他府縣へ轉籍之節ハ其旨ヲ記シタル届書ニ免許狀相添へ差出スヘシ

第七條 管内ノ轉籍寄留ハ其都度速ニ届出スヘシ

第八條 營業停止又ハ禁止ノ處分ヲ受ケタルホハ其旨詳記シタル届書ニ免許狀相添へ差出スヘシ其停止ニ係ルモノハ幾年月日間停止ノ旨免許狀ニ裏書シ下付スヘシ

第九條 營業者ハ左ノ各項ヲ禁ス

- 一 免許外ノ施術ヲ爲ス事
- 二 出張所ヲ設ル事
- 三 免許狀ヲ貸與又ハ讓與スル事

第十條 總テ願書ハ一通届書ハ一通ヲ作り其町村戸長ノ奥印ヲ得所轄區役所ヲ經テ差出スヘシ

第十一條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第六款 水蛭吸血施術者取締規則

甲第七十號

明治十六年九月廿一日

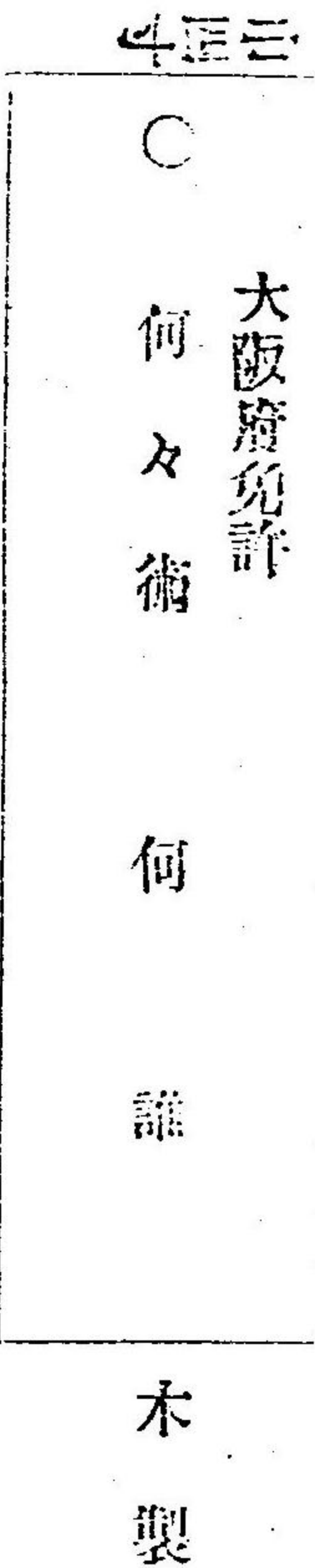
水蛭吸血施術者取締規則別冊之通相定本年十月一日ヨリ施行ス

水蛭吸血施術者取締規則

第一條 醫師ニ非スシテ水蛭若クハ吸血ノ術ヲ衆人ニ施ス者ハ從前當府ヨリ下附タル免許狀ヲ所持スルニアラサレハ之ヲ許サス
 但シ新規施術他府縣免許ノ者當府へ轉籍又ハ寄留若クハ歸籍ノ者モ包含ス並ニ復業ヲ願出ルモノ之ヲ許サ、ルモノトス

第二條 第一條ニ掲ケタル所ノ施術ヲナス者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

- 一 左ノ雛形ノ門標ヲ掲ケルコト
- 長一尺



二 管内ノ轉居ハ其都度届出ルコト

三 廢業死亡又ハ他府縣下へ轉籍等ノ節ハ其旨詳記シタル届書ニ免許狀相添ヘ差出スコト

四 免許狀ヲ失却毀損シ又ハ氏名ヲ改メタル等ノ節ハ其旨詳記シ書換又ハ更ニ下附ヲ願出ルコト

第三條 第一條ニ掲ケタル所ノ施術ヲナス者ハ左ノ各項ヲ禁ス

- 一 藥劑ヲ投シ又ハ處方ヲ指示スル等總テ醫師ニ紛ハシキ所業ヲ爲スコト
- 二 醫師施療中ノ患者ニ對シ其醫ノ差圖ヲ受ケスシテ施術スルコト
- 三 食餌ノ適否等ニ付無稽ノ說ヲ唱フルコト
- 四 免許外ノ施術ヲ爲スコト
- 五 本業ノ爲メ出張所ヲ設ケルコト

十八年甲第二十六号及九十六号ヲ以テ(監省減免)ノ四字ヲ删除ス

六 免許狀ヲ貸與又ハ讓與スルコト
 第四條 總テ願書第二條ノニハ正副二通届書第三條ノニ項及ヒ三項ハ一通ヲ作り其町村戸長ノ與書ヲ得テ所轄部區役所ヲ經由シ當廳ヘ差出ス可シ
 第五條 此規則ニ違背シタル者及本業上ニ關シ處刑ヲ受ケタル者ハ其業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアル可シ

第六章 藥舖並藥種商取締規則

第一款 藥舖並藥種商取締規則

●甲第三十五号 明治十五年四月十七日

藥舖並藥種商取締規則別紙之通相定メ來ル五月一日ヨリ施行候條明治十二年當府天第五十七号ヲ以テ相達候該規則ハ右施行之日ヨリ廢止候儀ト可相心得此旨布達候事

第一章 藥舖並藥種商取締規則

第一章

總則

十五年甲第百十二号ヲ以テ但書ヲ追加シ十七年甲第九十二号ヲ以テ改正ス

第一條 藥舖並藥種商ハ官ノ許可ヲ受ルニアラサレハ營業ヲ爲ス可カラズ但藥種商ハ滿二十年以上ノ者ニアラサレハ新ニ開業スルコト得ス
 第二條 藥舖並藥種商ノ者若シ改姓名スルコトハ免狀書換テ請ヒ且水火盜難等

十七年甲第七号ヲ以テ第三條中(鑑札)ノ二字ヲ刪ル

ニ因リ免狀ヲ毀失シタルコトハ其事由ヲ詳記シ更ニ願受ヘシ
 第三條 廢業或ハ死亡或ハ他府縣ヘ轉籍スルコトハ直ニ免狀ヲ返納スヘシ但シ内務省免許ノ藥舖ニシテ他府縣ヘ轉籍スル乎或ハ開休業スルコトハ其旨届出ヘシ

十五年甲第百十二号ヲ以テ但書ヲ加ス

第四條 總テ藥品ニハ其名稱ヲ詳記シ且毒藥ハ毒ノ字劇藥ハ劇ノ字ヲ朱書シ別ニ棚又ハ箱等ニ容レ他ノ藥品ト混同スヘカラス
 但和洋兩文ヲ記スルハ妨ナシト雖片單ニ洋文ノミヲ記ス可カラズ

第五條 藥名ノ記載ナキ者ハ勿論疑ハシキ者ハ販賣ヲナス可カラズ

十五年甲第百十二号ヲ以テ第六條ヲ追加シ以下各條遞下ス

第六條 明治十年内務省甲第七号布達司藥場検査印紙ニ紛敷モノハ一切用ユヘカラス
 但封緘ニ用ユル印紙商標及ヒ藥名標ハ新規調製ノ都度當府ノ認可ヲ受可シ

第七條 臨時官吏ヲ派出シ藥名及容器等ノ検査ヲ爲スコトアルヘシ

第二章

藥舖

第八條 此規則ニ違背シタル者及本業上ニ關シ處刑ヲ受クル者ハ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

十七年甲第七号ヲ以テ第八條ヲ追加シ以下各條遞下ス

第四編 衛生

藥舖並藥種商取締規則

第九條 藥舖ハ醫師ノ處方書ニ因テ調劑ヲ爲スモノトス
 但藥種商ヲ兼ルモ妨ケナシ
 第十條 新ニ藥舖ヲラント欲スルモノハ左ノ書式ニ因リ郡區役所ヲ經テ府廳
 へ願出ヘシ
 但官立學校ニ於テ製藥學ヲ卒業シ其卒業證書ヲ所持スル者ハ試驗ヲ要セ
 ス其証ノ寫ヲ添へ願出ヘシ
 藥舖開業願

國郡村
 區町番地
 族籍 何 某
 何年何ヶ月

私儀今般府下何郡區何町村何番地ニ於テ藥舖開業仕度候間(御試驗ノ上ニ本
 但書ノ證書ヲ所持スル者ハ此立字ヲ賜ス)免狀御下付被成下度履書相添此段奉願候也
 年月日 右 何 某 印

前書之通出願候ニ付奥印仕候也

衛生委員 全 印
 戸長 全 印

大坂府知事宛

十五甲第百十
 二号ヲ以テ第十
 二條中(處分及)
 三字ヲ刪ル

十五年甲第百十
 二号ヲ以テ(處方)
 ナ調劑ト改ム

第十一條 醫師ノ處方書中藥名不明瞭又ハ其分量等不適當ト認ムルモハ之ヲ
 處方主ニ質シ了解ヲ得テ後調劑スヘシ
 第十二條 藥劑ノ容器及包袋等ニハ其用法ハ勿論患者ノ姓名ヲ詳記シ且藥舖
 主ノ住所姓名アル印ヲ捺スヘシ
 第十三條 處方書中醫師ノ住所姓名年月日捺印及ヒ患者ノ住所姓名年齢等ナ
 キ者ハ一切調劑ヲ爲スヘカラス
 第十四條 調劑ヲ爲シタル處方書ニハ調劑者ノ檢印ヲ捺シ之ヲ集綴保存シ置
 キ臨時派出官吏ノ點檢ニ供スヘシ
 第十五條 試驗科目及試驗手續左ノ如シ
 第一 試驗科目ハ
 算術 物理學 化學 藥物學 調劑學 各大意
 第二 試驗ヲ分テ記載及ヒ口頭ノ二トス
 第三 記載試驗ハ一科二問題トシ一題ヲ二時間以内ニ答記セシメ口頭試驗
 ハ專ラ實物ニ就キ試驗スル者ニシテ一科一時間ヲ踰ユヘカラス
 第四 受験人ハ筆墨ノ外書籍等ノ携帯ヲ許サス且一問ノ答記了ラサル間ハ
 比席ヲ離ルヘカラス

第四編衛生

藥舖並藥種商取締規則

十七年甲第七号
ヲ以テ第五項ヲ
改正ス

第五 試驗ハ毎年三月九月ノ二回トシ其場所時日等ハ豫メ告示スヘシ
第十六條 藥舖ハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲シヘシ

内務省(或大坂府)免許 藥 舖 何 某 二尺五寸

第三章

藥種商

第十七條 藥種商ハ各種ノ藥品ヲ賣買スル者トス

十七年甲第七号
ヲ以テ追加以下各
條添下ス

第十八條 新ニ藥種商タルヲ得ルモノハ滿一ケ年以上該業又ハ藥舖等ノ家ニ
在ツテ概テ藥品ノ性質ニ通曉シタル者タルヘシ
但實物ニ就キ試問スルコアルヘシ

十七年甲第七号
ヲ以改正

第十九條 新ニ藥種商タラント欲スル者ハ願書ニ前條ノ履歷書ヲ添ヘ郡區役
所ヲ經テ當廳ヘ願出ヘシ
但履歷書ニハ授業者ノ保証ヲ受クヘシ若シ其保証ヲ受ケ難キ場合ニ在テ
ハ同業者二名以上ノ保証ヲ以テ之レニ換ルコヲ得

第二十條 藥種商ハ醫師ノ處方書ノ有無ニ拘ラス調劑スルヲ許サス
第二十一條 明治十三年第一號公布藥品取扱規則第二類^{藥毒}第三類^劇ノ藥品ヲ
小賣若クハ授與スルキハ該規則ヲ遵守シ適應ノ器ニ容レ封印ヲナシ必ス其
藥名ヲ記シテ毒或ハ劇ノ字ヲ朱書スヘシ

第二十二條 前條ノ第二類第三類ノ藥品ヲ販賣若クハ授與ノ際受取タル証書
ハ集綴保存シ置キ派出官吏ノ點檢ニ供スヘシ

●甲第八號 明治十七年一月二十六日

藥舖並藥種商取締規則第一條但書ニ新ニ開業ヲ願フ者ハ滿二十年以上ノ男子
タルヘシト有之候處藥種商ノ相續替ニ際シ跡相續ハ婦女子又ハ未丁年ノ男子
ナルカ爲メ營業繼續難相成者ハ該家ニ其居シ概テ藥品ノ性質ニ通曉シタル丁
年以上ノ男子ヲシテ後見人ヲ設ケ業務ノ責任ヲ負擔セシムル上ハ當分ノ内繼
續營業許可スヘシ
但願書ニハ戶主後見人連署スヘシ

第二款 賣藥規則外製劑取締規則

●甲第一百十六號 明治十八年十二月十八日

賣藥規則外製劑取締規則別冊ノ通相定明治十九年一月ヨリ施行ス
但從來許可ノ者ト雖モ本則第一條ノ各項ニ係ルモノハ明治十九年一月三十

一日限り更ニ願出ヘシ

賣藥規則外製劑取締規則

第一條 此規則ニ稱スル製劑トハ藥品ノ單味ト數味ヲ配伍スルトニ論ナク治

病ノ目的ニアラスシテ調製販賣スルモノヲ云フ其品類左ノ如シ

第一項 飲食物ノ腐敗ヲ防キ或ハ飲料ノ濁濁ヲ澄ス爲メ用ルモノ

第二項 汚穢物ニ撒布シ或ハ濯概シテ惡臭ヲ除ク爲メ用ルモノ

第三項 蠶畜若クハ昆蟲ヲ驅逐シ或ハ殺ス爲メ用ルモノ

第二條 製劑ハ劑名藥味分量製法用法功能ヲ詳記シ第一號書式ニ因リ原品ヲ

添ヘ願出免許證ヲ受クヘシ

第三條 包紙容器等ニハ製劑者ヲ記載スヘシ

第四條 免許証下付ノ後ト雖モ危害ヲ招クノ虞アルモノハ販賣ヲ禁スル事ア

ルヘシ

第五條 他府縣ニ於テ許可ヲ得タル製劑ヲ受賣又ハ行商セントスルモノハ第

二號書式ニ因リ願出ヘシ

第六條 免許証ヲ貸借又ハ讓與スヘカラス

第七條 免許證ヲ毀損亡失シ若クハ氏名ヲ改メタル等ノ節ハ其旨詳記シ書換

又ハ更ニ下付ヲ願出ヘシ

第八條 廢業死亡又ハ他府縣ニ轉籍ノ節ハ其旨ヲ記シタル届書ニ免許証相添

差出スヘシ

第九條 管内之轉籍寄留ハ其都度速ニ届出ヘシ

第十條 營業停止ノ處分ヲ受ケタメ者ハ其旨詳記シタル届書ニ免許証相添差

出スヘシ

第十一條 總テ願書ハ一通届書ハ一通ヲ作り其町村戸長ノ奥印ヲ得所轄郡區

役所ヲ經テ差出スヘシ

第十二條 此規則第一條第四條第十條ニ違背スル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

第十三條 營業上ニ依リ違警罪以上ニ處セラレタルモノハ所犯ノ情狀ニ依リ

營業ヲ停止スルコアルヘシ

第一號書式 用紙美濃紙

一劑名

藥味分量

製法

用法

功能

右之方劑調製發賣仕度候間御檢査ノ上免許証御下付被下度原品相添へ此段奉願候也

大阪府何國何郡何町何村何番地住〔寄留〕
族籍〔寄留ハ原籍ヲモ爰ニ記ス〕

年月日

氏名印

（公業仲間規則ニヨリ取締人ノ設ア
ルモノ其取締人爰ニ連署スヘシ）

右願出候ニ付與印仕候也

右何町戸長

氏名印

大阪府知事何誰殿

第二號書式 用紙前ニ同シ

賣藥規則外製劑請賣〔行商〕願

一劑名

何縣何國何郡何町何村何番地住〔寄留〕

族籍〔寄留ハ原籍ヲモ爰ニ記ス〕

營業人 氏名

右ノ製劑請賣〔行商〕仕度依テ別紙發賣願書及免許証書寫相添此段奉願候也

肩書一號書式ニ同シ

年月日

氏名

（公業仲間規則ニヨリ取締人ノ設ケア
ルモノ其取締人爰ニ連署スヘシ）

與印書式及宛名前ニ同シ

第三款 摺附木黃燐ヲ用フルヲ禁ス

●甲第八號 明治十八年二月六日

自今摺附木製造ニ黃燐ヲ用フルヲ禁ス

第七章 墓地埋葬

第一款 墓地及埋葬取締細則

●甲第四十二號 明治十八年五月二十一日

墓地及埋葬取締細則別紙之通相定メ明治十八年六月十五日ヨリ施行シ本則ニ抵觸スル從前ノ達指令等同日限リ之ヲ廢止ス

但從來ノ火葬場 東成郡天寺村千二百一番地宇與經立西成郡岩崎新田四十五番地同郡長柄村百九十八番地宇毘沙門堂大島郡湊村四百九十一番地宇川バタノ四ヶ所ヲ除クニシテ本則第四條ニ觸ル、モノハ同年十一月三十日限リ之ヲ廢場シ其第六條ニ觸ル、モノハ同日迄ニ修築ス可シ

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地及火葬場ハ現在ノ個所ヲ以テ定限トス

第二條 已ムテ得サル事情アリテ新設又ハ區域取擴メ等ヲ爲サントスルモノハ左項ヲ詳悉シ戶長及衛生委員ノ奥印ヲ受ケ所轄郡區役所ヲ經由シ當廳へ出願スヘシ

但改造模様換ニ係ルハ第一項ノ外之ヲ添ユルニ及ハス

一 地圖及構造圖仕様書

二 地番字地種地目區別及墓地又ハ火葬室ニ等級ヲ設クルモノハ其區別

三 國道縣道鐵道及學校病院^{公私}人家并ニ飲用水^{井川}アル個所へ直徑ノ距離

四 敷地^外ヨリ四方百二十間以内地主ノ承諾証

第三條 凡ソ新設又ハ區域取擴メ等ノ許可ヲ得テ五十日內工事ニ着手スルヲ得サルモハ其事由ヲ届出ツ可シ

但六ヶ月ヲ經過シ着手セサルモノハ許可ノ効ヲ失フ可シ

第四條 墓地及火葬場ハ國道縣道鐵道人家并ニ左ノ河川及學校病院^{公私}又ハ飲用水アル個所ヨリ直徑百二十間以上ノ距離ヲ有シ無稅又ハ薄稅地ヲ撰ムヘシ

但墓地ハ高燥ノ地火葬場ハ人民輻湊ノ地ノ恒風上ニ位セサル場所ヲ要ス

一 淀川

二 大和川 大和國葛城管我神川台流ノ所ヨリ下流

三 神崎川

四 中津川

五 安治川

六 木津川

七 石川

河内國錦守郡彼方村ヨリ下流
巨阪石川和東橋持ヨリ下流

第五條 墓地ノ内外ニ於テ金屬又ハ木石等ニ記傳銘贊等ヲ鏤刻シ碑表ヲ建設セントスルモノハ其旨趣ヲ詳記シ原稿ヲ添へ所轄警察署へ出願スヘシ

但死者ノ姓名族籍官位勳賞法號又ハ生死年月日若クハ建設者ノ姓名ヲ記スルニ止ル墓標ヲ建ツルハ此限リニアラス

第六條 墓地及火葬場ハ左項ニ遵フヘシ

一 墓地ノ周圍ニハ樹木ヲ栽植スルコト

但寺院內等ニアリテ其境界特ニ塙牆アルモノハ此限リニアラス

二 火葬場ノ周圍ニハ塙牆ヲ設ケ并ニ火葬室及火爐煙筒ヲ備へ臭煙ヲ防クノ裝置ヲ爲スコト

但山林原野等ニアリテ人家并ニ道路ニ隔絶セル場所ナレハ適宜簡易ノ裝置ヲ爲スヲ得

三 傳染病^{虎列拉發疹}ニ罹リタル死屍及死刑ニ處セラレタル遺骸ヲ埋葬セン

トスルモノハ墓地ノ内ニ各其區畫ヲ設クルコト

但傳染病死者ノ埋葬ハ方六尺以上ヲ以テ一個人ノ擴穴ト定ムヘシ

第七條 墓地及火葬場ヲ賣買讓與賣買讓與ハ相方連署又ハ區域減縮若クハ廢合セントス

ルモノハ當廳へ出願ス可シ

第八條 新設又ハ改造模様換等ヲ爲シ落成シタルハ所轄警察署又ハ分署へ届出檢査ヲ受クヘシ

但不適當ト認ムルハ全部又ハ其幾部ノ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 免許ノ墓地及火葬場ハ雛形ニ準シ其入口ニ標柱ヲ建設スヘシ

第十條 墓地内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存ス可カラス

但從來現存スルモノハ此限リニアラス

第十一條 墓地及火葬場ノ持主自ラ其場所ヲ管理スルヲ得サルモノ及町村共有等ニ係ルモノハ管理者ヲ置キ諸般ノ取締ヲ爲サシム可シ

但寺院内ニアルモノハ其住職等之ヲ管理スルモノトス

第十二條 凡ソ管理者及埋火葬取扱人等ハ其住所姓名ヲ所轄警察署又ハ分署及戶長役場へ届出ツヘシ

第十三條 古墳若クハ墓地外ニアル碑表又ハ墓標等ハ建設主特約アル者ヲ除ク其主ナキモノハ遺族又ハ親戚等之ヲ管理スヘシ

但建設主又ハ遺族親族ナキモノハ其町村ノ管理トス

第十四條 大坂市街并ニ接續町村ニ於テハ左ノ個所ヲ除ク外及堺區内朱引以

西ノ地ニ於テ死屍ノ埋葬ヲ許サス

但火葬ノ遺骨ヲ埋瘞スルハ此限リニアラス

- 一 東成郡東高津村八十九番地字エマガマヘ 一ヶ所
- 二 東成郡野田村五十七番地字西七反田 一ヶ所
- 三 東成郡天王寺村五千八百廿二番地字葎ヶ谷 一ヶ所
- 四 東成郡天王寺村千二百一番地字奥經立 一ヶ所
- 五 東成郡新喜田新田三十八番地字西島崎 一ヶ所
- 六 西成郡九條村百八十四番地字千印 一ヶ所
- 七 西成郡木津村六百三十七番地字東川代田 一ヶ所
- 八 西成郡三軒屋村三百六十八番地字堤外 一ヶ所
- 九 西成郡上福島村五十二番地字久安寺内字廻り江 一ヶ所
- 十 西成郡上福島村二百五十三番地字妙德寺内字廻り江 一ヶ所
- 十一 西成郡上福島村五百三十六番地字光智院内字野中 一ヶ所
- 十二 西成郡下福島村三百五番地字宮ノ西 一ヶ所
- 十三 西成郡岩崎新田四十五番地 一ヶ所

第十五條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスルモノハ左項ノ醫案又ハ証書等ヲ添
 ～戸長ノ認可証ヲ受ケ之ヲ墓地又ハ火葬場持主若クハ管理者ニ交付スヘシ
 一 主治醫ノ死亡届
 二 醫師ノ治療ヲ受クル猶豫ナクシテ死亡シタル者ハ醫師ノ檢案書
 三 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルハ醫師ノ死産証
 四 變死ニ係ルハ立會醫師ノ檢案書
 但該檢案書ニハ檢視官ノ檢印ヲ受クヘキモノトス
 五 囚徒ノ死屍ヲ引取タルモノハ獄醫ノ死亡証書寫
 但該証書寫ニハ司獄官ノ檢印ヲ受クヘキモノトス
 第十六條 戸長ハ前條ノ届書又ハ醫案証書等領收シタル後認許証ヲ與フヘシ
 第十七條 墓地及火葬場持主又ハ管理者ハ葬主ヨリ領收シタル戸長ノ認許証
 ニ裏書ヲナシ之ヲ保存シテ毎三月取纏メ翌月十日迄ニ所轄警察署又ハ分署
 ノ檢閱ヲ受ケ郡區役所又ハ戸長役場へ差出スヘシ
 第十八條 墓地及火葬場ハ種族及宗旨ヲ別タス其町村ニ在籍ノモノ若クハ其
 町村ニ於テ死亡シタルモノハ何人ヲ問ハス埋葬又ハ火葬スルコトヲ得其從
 前別段ノ習慣アルモノハ此限リニアラスト雖モ所轄警察署ノ認可ヲ受クル
 コアラカレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 變死等ニ係ル假埋ノ死屍ヲ親屬等管檢シ又ハ其地ニ移シ埋(火)葬
 セントスルモノハ所轄地戸長ノ許可ヲ受クヘシ
 第二十條 變死等ニ係ル假埋ノ死屍一ケ年間ヲ經過シ引取人ナキモノハ其町
 村ニ於テ簡易ナル墓標ヲ建ツ可シ
 第二十一條 埋葬ノ擴穴ハ地面ヨリ深サ六尺以上タルヘシ其六尺ニ至リ難キ土
 地及火葬ノ遺骨ヲ埋瘞スルモノハ此限リニアラス
 第二十二條 墓地ニテ顯レタル遺骨及火葬ノ殘骨ハ持主又ハ管理者ニ於テ墓地
 ノ一隅へ埋没スヘシ
 但其他ニ於テ鬮體等ヲ發顯シタルルハ其町村又ハ地主ニテ埋没ノ手續ヲ
 爲スヘシ
 第二十三條 傳染病 虎列拉發疹 室扶斯痘瘡ニ罹リタル死屍及死刑ニ處セラレタル遺骸ハ第六
 條第三項ニ定メタル區畫外ニ埋葬スヘカラス
 但傳染病ニシテ火葬シタル遺骨ハ此限リニアラス
 第二十四條 改葬又ハ合葬ヲ爲サントスルモノハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署又
 ハ分署へ出願スヘシ
 但傳染病ニ罹リタル死屍ハ改葬スルヲ許サス
 第二十五條 傳染病ニ罹リタル死屍ハ死後廿四時ヲ經スト雖モ之ヲ埋(火)葬ス

ルコトヲ得

但變死等ニシテ相當官吏ノ許可ヲ得タルモノ及死産兒ヲ葬ラントスルモノ亦同シ

第廿六條 火葬ハ日没ヨリ日出マテテ限リ之ヲ執行スヘシ但山林原野等人家并ニ道路ヘ三丁以上ノ距離ヲ有スル場所ハ此限リニアラス

第廿七條 墓地及火葬場ニ於テ親屬等ノ求メアルニアラサレハ棺蓋ヲ開ク可ラス

第廿八條 火葬取扱人ハ死屍ノ燒尽ニ至ルマテ便宜看護ヲ爲ス可シ

第廿九條 管理者等埋葬又ハ火葬セントスル死屍ニシテ若シ葬儀執行者ノ舉動不審ト認ムルモノアルハ速ニ警察官吏ヘ密告スヘシ

第三十條 墓地及火葬場内ハ清潔ニ時々掃除ヲ爲シ破損等ノ箇所ハ速ニ修理スヘシ

第三十一條 墓地及火葬場ハ持主又ハ管理者ニ於テ圖面設地反別共別共ヲ調製シ又墓地ハ墓籍火葬場ハ火葬録ヲ備ヘ置キ埋(火)葬取扱ヒタル始末等ヲ明記保存ス可シ

但圖面中各墓標ノ位置ニ番號ヲ付シ其所在ヲ明カニスヘシ

第三十二條 主務官吏ハ墓地及火葬場ヲ時々臨檢スルコトアルヘシ

第三十三條 墓地及火葬場ニ關スル一切ノ事ハ持主又ハ管理者其責ニ任ス可シト雖モ家族雇人等故意ニ出タルモノハ各其責ニ任ス可シ

第三十四條 本則第二條第五條第七條第十四條第十五條第十七條第十八條第十九條第廿一條第廿二條第廿三條第廿四條第廿六條第廿七條第廿八條第廿九條第卅一條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

附則 從來ノ墓地及火葬場ニシテ特ニ許可ノ証ナキモノハ此際更ニ出願シ其証アルモノハ所轄警察署ヘ届出ツヘシ

軍人ノ死屍ヲ陸海軍管轄ノ墓地ヘ埋葬シ又ハ建碑等ニシテ官署ノ執行ニ係ルモノハ規則及ヒ此細則ニ依ルノ限リニアラス

囚徒及傳染病者ノ死屍并ニ死刑ニ處セラレタル遺骸ニシテ官署ノ執行ニ係ルモノハ前項ニ同シ

耕地宅地山林其他地券面外書ノ墓地埋火葬執行セサルモノハ本則第十三條古墳ノ例ニ據リ保管スヘシ

在來火葬場ノ位置及裝置ハ土地ノ情況ニ因リ本則第四條及第六條ノ制限ニ拘ラス許可スルコトアルヘシ

現今未ダ處分ヲ經サル在來ノ火葬場ニシテ此追加第二項ノ許可ヲ得ントスル

十九年府令第十
五号ヲ以テ及原
染病者ノ五字挿
入シ及第四項以
下追加

者ハ本年十一月三十日マテニ事由ヲ詳悉シ本則第二條ノ手續ニ依リ出願スヘシ其出願ナキ者ハ総テ廢場トス

火葬錄雛形

備考一 番號ハ 毎年改 タムル モノト ス	號	番 死亡	火葬シタル 病名變(胎)死 等ノ區別	葬主ノ住所 住所身分 氏名 年齢	何 明治何年 明治何年 何々病又ハ水 死經死壓死等 ノ區別ヲ記 ス	何 明治何年 明治何年 何々病又ハ水 死經死壓死等 ノ區別ヲ記 ス	何 明治何年 明治何年 何々病又ハ水 死經死壓死等 ノ區別ヲ記 ス	何 明治何年 明治何年 何々病又ハ水 死經死壓死等 ノ區別ヲ記 ス

墓籍ノ雛形

備考一 番號ハ 毎年改 シムル モノト ス	號	番 埋(火)葬ノ 區別及ヒ 其年月日	墓 所主ノ住 姓名及日	考 法 死亡年月日 住所身分 氏名 年齢	何 年何月何日 何々 何々	何 年何月何日 何々 何々	何 年何月何日 何々 何々	何 年何月何日 何々 何々

認許證雛形

仙花四ツ切

裏		而		表			
<p>第二十五條ニ所載スル死體ノ埋(火)葬認許證ニハ雛形ノ但書ヲ記付セサルモノトス</p> <p>表書之死體ハ何年何月何日午前(後)第何時埋(火)葬執行候事</p> <p>何國何區何町何村何々墓地(火葬場)</p> <p>管理者 何</p> <p>年月日 何 誰印</p>		<p>認許證</p> <p>府下何國何區何町何番地寄留</p> <p>何府縣何區何町何番地<small>戸主若クハ妻子兄弟姉妹等ニ詳記ス</small></p> <p>何</p> <p>何年何ヶ月</p> <p>右埋(火)葬認許候事</p> <p>但シ願書ノ時間ヨリ二十四時間ヲ經過ノ後執行スヘシ</p> <p>大阪府何區何町何外何ヶ町村</p> <p>戸長 何 誰印</p> <p>年月日</p>		<p>死ニ至リタル病名</p> <p>(變)胎)死年月日時</p>		<p>何</p>	

而	
<p>標柱雛形</p> <p>木質適宜巾曲尺六寸角ニシテ地上一丈二尺以上トス</p> <p>何國何區何町何村何々共有</p> <p>何々會社所有 何村</p> <p>其所有</p> <p>左側面</p>	<p>免墓地(火葬場)</p> <p>正面</p>
而	
<p>墓地ト火葬場ト同境域内ニアルモノハ單ニ墓地火葬場ト書シ苟モ其境域ヲ異ニスルモノハ各別ニ建設スルモノトス</p> <p>敷地反別何反何畝何歩</p> <p>右側面</p> <p>明治 年 月 日 免許</p> <p>裏面</p>	<p>何</p>

●乙第七十一號 明治十八年六月二日

郡區役所
戸長役場

今般甲第四十二號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付テハ郡區役所ニ於テ同則第十七條ニ依リ墓地及火葬場持主又ハ管理者ヨリ埋火葬執行濟ノ認許証ヲ受領シタルハ該認許証ヲ附與シタル戸長役場へ送付シ同戸長役場ニ於テ之ヲ保存ス可シ此旨相達候事

●第七十五號 明治十八年六月十二日

戸長役場

本年甲第四十二號布達墓地及埋葬取締規則第十九條ニ係ル死屍并ニ檢體濟引渡ヲ受ケタル死屍ニシテ追テ住所氏名ヲ明カニシ其親族等へ引渡候節ハ最前引渡ヲ受ケタル警察官派遣ノ警察署へ其事由ヲ通知スヘシ此旨相達候事

●乙第九十一號 明治十八年七月十日

郡區役所^{大坂四區}
ヲ除ク

本年甲第四十二號布達墓地及埋葬取締規則第二條ニ依リ墓地又ハ火葬場ヲ新設若クハ區域取擴等願出候ハ一應所轄警察署又ハ分署へ移牒シ實地檢査ヲ求メ候様取計フ可シ此旨相達候事

但警察署又ハ分署ニ於テ爲シタル外尙檢査上必用ト見認ル箇所アルハ其所員ヲ以テ適宜檢査セシム可シ

●丙第二百四十九號 明治十八年八月四日

八弘社

虎列拉病ニ罹リタル死屍ニ限リ墓地及埋葬取締規則第二十六條ニ拘ハラヌ死

屍送付次第迅速火葬執行スヘシ

但岩崎新田火葬場ハ本文ニ依ルノ限リニ非ス

第二款 墓地及埋葬取締規則並細則取扱手續

○本甲第五十六號 明治十八年五月二十七日 警察署

墓地及埋葬取締規則取扱手續別紙ノ通相定候條此段及通達候也

但此手續ニ抵觸スル從前ノ達指令等同日限り之ヲ廢止ス

墓地及埋葬取締規則並細則取扱手續

第一條 墓地及埋葬取締ニ關スル事務ハ左ノ手續ニ從ヒ取扱フ可シ

第二條 碑表建設願ハ其旨意書及碑文原稿ヲ添へ許否稟議ス可シ

第三條 細則第八條ニ係ル墓地埋葬場ノ檢査ハ警部補代理巡查以上ニ於テ之

ヲ爲シ其檢査ヲ終ヘタルハ詳悉本署へ報告ス可シ

但分署部内ニ係ルハ根署ヲ經由スルモノトス

第四條 變死等ニシテ醫師ノ檢案書へ檢印ヲ願フモノアルハ埋(火)葬差支ナ

キモノハ檢視官ニ於テ該檢案書ノ欄外へ檢印ス可シ

但原籍不詳ニ係ルハ檢視官ニ於テ立會醫師ヨリ檢案書ニ通テ徵シ檢印シ

テ立會戸長へ交付スルモノトス

第五條 細則第十八條ニ依リ埋葬又ハ火葬セントスルヲ拒絕スルノ認可ヲ願

近年紀念碑ノ建設頗ル流行ノ傾向有之候處右ハ格別國家ニ功勞アルモノ其他
頌揚スヘキ事蹟アルモノ、外官有地ニ建碑ノ義ハ詮議不相成等ニ候條爲心得
此段相違候也

○内達乙第一号 明治十九年八月五日

警察署

死刑ノ處斷ヲ受ケタル者又ハ處斷ニ至ラスシテ死シタル者ノ爲メ誌銘傳贊其
他翼贊ノ意ヲ包含シタル碑表ヲ建設セントスル者アルハ墓地及ヒ埋葬取締
規則ニ據リ許可不相成ハ勿論ニ候處尙此他右等ノ者ノ爲メ公衆ヲ集メ又ハ公
衆ニ顯示スヘキ方法ヲ以テ祭典ヲ執行シ若クハ建碑祭典等ノ爲メ資金募集ノ
廣告ヲ爲スカ如キモ又治安ニ關係不少儀ニ付自然右等ノ事實アルハ宜シク
情況ヲ審按シ荷シクモ治安ヲ妨害スルノ認アルニ於テハ直チニ其事由ヲ詳悉
シテ具申スヘシ

第八章 妊婦分娩胞衣其他汚穢物

●甲第四百四号 明治十九年七月一日

妊婦分娩ノ節胞衣其他ノ汚穢物ハ邸宅内ニ埋没スルヲ禁ス

但本文ノ汚穢物ハ墓地火葬場又ハ人家隔絶ノ地ニ於テ埋没若クハ焼却スヘシ

●甲第四百五号 明治十九年七月一日

妊婦分娩ノ節胞衣其他汚穢物埋没若クハ焼却ヲ營業セントスル者ハ其方法場
所及手数料等ヲ詳記シ當廳ニ届出認可ヲ受ク可シ

但現今營業ノ者ハ本文ニ依リ來ル七月十五日迄ニ届出認可ヲ受ク可シ

第九章 尿尿取締ニ關スル事

●申第二百五十五号 壬申七月

糞尿中ノ紙ヲ絞取渡世トスルモノ有之困究ノ餘リカ、ル賤業ヲナストハ乍申
陋習ノ甚シキ人トシテ有間敷事ニ候加之川水ヲ以テ之ヲ洗シ不潔ヲ流シ候段
不宜事ニ付向後右等ノ業事堅差留候間早々他業ニ移轉可致候事右之趣市郡無
洩相達スルモノ也

●天第百八號 明治十三年七月廿七日

明治十一年天第百十四號尿尿取締概則相廢シ更ニ左ノ通相定候條此旨布達候事
第一條 市街并ニ接近郡村ニ於テ尿尿ヲ運搬スル時間ハ四五六七八九月ノ六
ケ月ハ午前八時マテ十一十二三ノ六ケ月ハ午前九時マテニ限ルヘシ
第二條 尿尿ヲ容ル、桶及ヒ運搬船等ニ蓋ヲ覆ヒ臭氣并ニ汚汁ノ漏泄セサル
様注意スヘシ

●地第八十一號 明治十三年七月日不詳 郡區役所

十一年天第百十四號布達尿尿取締概則相廢候ニ付別紙規則ニ據準シ取締方可取

計此旨相達候事

- 第一條 路傍ノ便所屎尿取締ハ郡區役所ニ於テ管理スルモノトス
- 第二條 路傍便所屎尿ノ汲取人ハ入札ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
但從前ノ汲取人ト第八條ノ契約ヲ爲スモ妨ケナシ
- 第三條 路傍便所ニハ番號并受負人ノ姓名札ヲ貼付スヘシ
- 第四條 汲取人ノ中ヨリ掃除人夫ヲ定メ各受持場ヲ區分シ嚴重ニ掃除ヲナサシムヘシ尤モ郡區役所ノ便宜ニ依リ他ヨリ掃除人ヲ定ムルモ妨ケナシ
- 第五條 路傍便所ノ修繕及配置等ハ郡區役所ニ於テ之ヲ專掌シ其經費ハ屎尿ノ代價中ヨリ支辨スヘシ
- 第六條 屎尿汲取人ハ左ノ書式ニ倣ヒ郡區役所ト契約取結ヒ鑑札ヲ受クヘシ
契約書式
- 第一款 屎尿取締規則ヲ遵守スヘシ
- 第二款 屎尿代價ハ毎年三六九十二ノ四ヶ月割リ郡區役所ニ上納スヘシ
但本人代價不納スル時ハ保証人ニ於テ辨償スヘシ
- 第三款 屎尿汲取ハ凡ソ一週一回ト爲シ雨雪洪水ノ後ハ溢流アル故ニ其際ニハ必ス汲取ニ怠ルヘカラス
- 第四款 便所ノ掃除ハ必ス疎略ナカラシムヘシ

右條項謹テ可相守若シ違背ノ廉有之節ハ勿論御都合ヲ以テ何時解約相成候共申分無御座候爲後証如件

年 月 日

屎尿汲取人 某 印
保 証 人 某 印
戸 長 某 印

郡區役所御中

第七條 屎尿取締規則ニ違背シタルモノ並ニ契約書ニ背キタルモノアルハ

他ノ汲取人中ヨリ入札ヲ以テ更ニ之ヲ改定シ契約ヲ解クヘシ

●地第九十一號 明治十三年八月十一日 郡區役所

今般地第八十一號ヲ以テ相達候路傍便所取締之儀ハ當分市中並接近郡村ニ限リ施行候儀ト可相心得此旨相達候事

但遠隔郡村ト雖モ便所ノ構造並配置取除等ノ不都合無之様取締方注意可致事

○本乙第八十號 明治十七年十一月二十二日

區 部 警 察 署
區 根 崎 警 察 署
天 王 寺 警 察 署

市街路傍便所ノ儀ハ漸次修築可相成等ニ候處往々毀壞候者有之右ハ汲取人等ノ所爲ニ出ツル趣ニ相聞不都合不少候條自今取締方一層注意可致此段及通達候也

●丙第四十二號 明治十六年三月十九日 界區役所
其區部内路傍便所並尿尿等本年七月一日ヨリ別紙規則ニ準據シ取締方可致此
旨相達候事

路傍便所並尿尿取締規則

- 第一條 路傍便所尿尿ノ取締ハ區役所ニ於テ管理スルモノトス
- 第二條 路傍便所尿尿ノ汲取ハ年限ヲ定メ入札ヲ以テ之ヲ請負ハシム可シ
- 第三條 路傍便所ニハ番號並ニ受持人ノ姓名札ヲ貼付スヘシ
- 第四條 汲取人ノ中ヨリ掃除人夫ヲ定メ各持場ヲ區分シ嚴重ニ掃除ヲナサシムヘシ尤モ區役所ノ便宜ニ依リ掃除人ヲ定ムルモ妨ナシ
- 但掃除人給料ハ尿尿代價中ヨリ支辨スヘシ
- 第五條 路傍便所ノ修繕及ヒ配置等ハ區役所ニ於テ專掌シ其經費ハ尿尿ノ代價中ヨリ支辨スヘシ
- 第六條 尿水汲取人ハ左ノ書式ニ倣ヒ契約ヲナシ鑑札ヲ與フ可シ
界區内路傍便所尿尿汲取請負契約書
- 第一 尿尿取締ニ付御達ノ旨趣ハ必ス遵守可仕事
- 第二 尿尿代價ハ毎年三六九十二ノ四ヶ月ニ割區役所へ上納可仕事

但本人代價不納スルキハ保証人ニ於テ辦償可仕事

第三 尿尿汲取ハ凡一週一回トシ雨雪洪水ノ後ハ溢流ノ患ヲ防ク爲メ其際ニハ必ス汲取ニ怠リ申問敷事

第四 便所ノ掃除ハ必ス疏畧ニ致問敷事

第五 請負年限中何等ノ事故アルモ其請負金額ノ減少等申問敷事右條々ヲ遵守スルハ勿論請負中自明治何年何月何日 至明治何年何月何日不都合ノ廉アル歟又ハ官ノ御都合ニ依リ何時解約被申付候其御座候爲後日差入申契約書如件

住所	換籍尿尿汲取人	何	某	印
同	保証人	何	某	印
右村	戸長	何	某	印

界區長氏名宛

第七條 契約書ニ背キタルモノアルキハ他ノ汲取人中ヨリ入札ヲ以テ更ニ之ヲ定メ契約ヲ解クヘシ

第十章 溝渠浚渫規則

●甲第卅三號 明治十六年六月廿五日

溝渠浚渫規則別紙ノ通相定本年八月一日ヨリ施行候條此旨布達候事
但明治十一年一月當府地第四號達并ニ明治十三年十月十二日舊堺縣甲第百七十號布

十八年甲第七十
五号ニテ(街生
委員トアルヲ
戸長ト改ム

達ハ同日ヨリ廢止ス

溝渠浚深規則

第一條

町村ノ共同ニ屬スル溝渠小溝下水道埋
樋月ノ輪等ハ毎年二回四月其町村若クハ關

係町村ニ於テ浚深スヘシ

第二條

毎戶附屬ノ溝渠ハ少ナクハ隔月一回二月四月六
八月十月十二月現住者ニ於テ浚深

スヘシ

但明家空地及倉庫等ニ屬スルモノハ家主若シクハ地主ニ於テ浚深ヲナス

モノトス

第三條

第一條ノ浚方着手ノ節ハ戶長現場ニ出張シ之レカ差圖ヲナスヘシ且

其場所並期日ハ所轄郡區役所及警察署若クハ分署へ届出ツヘシ

第四條

溝渠ヲ浚ヘタル淤泥塵芥等ハ戶長ノ差圖ヲ受ケ速ニ搬送スヘシ路傍

ニ堆積シ又ハ道路ノ修繕ニ供スヘカラス

第五條

掛リ官及戶長巡視ノ際若シ淤泥塵芥等ノ爲メ流通ヲ妨クル等總テ不

潔ノ溝渠ヲ認ルルハ臨時浚方ヲ爲サシムルコアル可シ

第六條

溝渠ノ破損アルルハ其町村若クハ關係町村又ハ家主若クハ地主ニ於

テ速ニ修理スヘシ

第七條

衛生上ノ妨害トナルヘキ路傍ノ溝渠ニハ石或ハ板ヲ以テ蓋ヲ設クヘ

シ

第八條 此規則ハ大坂四區并ニ接近郡町村及市街ノ体ヲナシタル地ニ於テ施

行スルモノトス

○本甲第百廿號

明治十六年六月廿八日

各署

本年當府甲第卅三號ヲ以テ溝渠浚深規則布達相成候ニ付テハ同則第三條ニ據

リ場所并期日等根分署へ届出候節ハ浚深向充分行届候様監査方可取計此段及

通達候也

○本甲第百六十三號

明治十六年九月十九日

各署水上署
ヲ除ク

本年當府甲第卅三號布達溝渠浚深規則第八條中市街ノ体ヲナシタル地云々ハ

左ノ町村へ實施候義ト可心得此段及通達候也

溝渠浚深規則第八條中市街ノ体ヲナシタル町村

西成郡

霧島町外九ヶ町

今在家村
中在家村但紀州街ニ係ル場所

住吉郡

平野郷一圓 安立町 長峽町

幡上郡

高槻村 土橋村 接續ノ上田邊村
 島下都 茨木村 田中村
 豐島郡 池田村
 茨田郡 牧方市街一圓
 若江郡 八尾市街一圓
 石川郡 富田林村 毛人谷村 接續南新堂村
 堺 區
 堺市街一圓
 大島郡 湊 村
 南 郡 岸和田市街一圓 貝塚市街一圓

日根郡 佐野村
 添上郡 奈良市街一圓
 添下郡 郡山市街一圓
 式上郡 三輪村 接續馬場村 金屋村
 十市郡 櫻井村 外山村 田原本村 新田村 八尾常盤町村 八尾村 北八木村
 宇陀郡 松山市街一圓
 葛上郡 御所町
 葛下郡 高田町
 高市郡

今井町 八木村

宇智郡

五條村 經惠村 新町村

第十一章 清潔委員事務規程

●廳達第七十七號 明治十九年十二月二十八日

警察本部

清潔委員事務規程別紙ノ通規定ス

但來ル明治二十年一月十日ヨリ施行ス

清潔委員事務規程

第一條 本年虎列拉患者アリシ家及不潔場所掃除スル爲メ廳内ニ清潔事務所

ヲ設ケ其職員ヲ置クイ左ノ如シ

一 事務長警察本部長ヲ以テ充之

一 事務副長衛生課長ヲ以テ充之

二 委員第一課内事課衛生課員ヲ以テ充之

第二條 事務長ハ事ヲ知事ニ受ケ清潔法ニ關スル事務ヲ總理シ清潔事務職員

ヲ指揮監督スヘシ

第三條 事務副長ハ職掌事務長ニ亞ク事務長不在ノ節ハ其事務ヲ代理スヘシ

第四條 委員ハ事務長ノ命ヲ受ケ事務ヲ分擔シ且事務長ノ耳目トナリ各清潔

事務掛ヲ巡視シ其實施スル清潔方法及適否ヲ監督スヘシ

第五條 各警察署ニ清潔事務掛ヲ設ケ其掛員ヲ置クイ左ノ如シ

一 掛長警察署長ヲ以テ充之

一 委員警部全補又ハ巡查ヲ以テ充之

一 調理員郡書記以下ヲ以テ充之

一 清潔員巡查ヲ以テ充之

第六條 事務掛長ハ事ヲ事務長ニ受ケ部内掃除ヲ幹理シ且ツ掛員ヲ指揮監督

スヘシ

第七條 委員ハ事ヲ事務長又ハ掛長ニ受ケ現場ニ出張シ清潔員及人夫ヲ指揮

督勵シ專ラ清潔事務ニ從事スヘシ其擔當事務ニ付不行届ノ廉アルハ一切

其責ニ任スヘシ

第八條 調理員ハ事ヲ事務長又ハ掛長ニ受ケ器具及日々使役スル人夫賃等ヲ

調理スヘシ

第九條 清潔員ハ事務長掛長又ハ委員ノ命ヲ受ケ現場ニ臨ミ人夫ヲ指揮督勵

シ掃除一切ヲ司ルヘシ其擔當事件ニシテ怠慢又ハ不行届ノ廉アルハ一切

其責ニ任スヘシ

清潔法實施手續

第一條 本法ヲ實施スル場處ハ左項ニ限ルヘシ

- 一 本年虎列拉病患者アリタル家ニシテ曾テ清潔法施行セサル家
- 二 曾テ清潔法施行シタル後再ヒ患者アリシ家
- 三 不潔ノ家屋及其場所

第二條 大阪四區及接續町村ニ在リテハ前條ノ各項ヲ實施スヘシト雖モ郡部ニ於テハ第一項第二項ニ限リ施行スヘシ

第三條 本法ノ掃除ニ使役スル人足ハ四人乃至五人ヲ以テ一組ト爲シ其一組ニ清潔員二人ヲ付シ委員ハ其二組ニ一人ヲ付スヘシ

第四條 大阪四區清潔事務掛ニ在リテハ委員擔當方面ヲ定メ本法施行中ハ可成其擔當方面ヲ變更セサルヲ要ス而シテ日々使役スル人足ハ一清潔事務掛ニ八組トス

第五條 本法實施セントスル場所ハ其日限ヲ定メ二日以前清潔事務掛ヨリ所轄區役所又ハ戶長役場ヘ通知スヘシ其通知ヲ受タル區役所戶長役場ハ即日該町村人民ヘ其旨告知スヘシ

第六條 第一條ノ各項掃除ハ左項ニ從フヘシ
一 家屋ノ周圍及床下ニ至ル迄消毒藥ヲ散布シ後家人ニ命シ疊ハ湯ヲ以テ之ヲ拭フヘシ

二 床板ハ之ヲ取外シ其床下ヲ掃除シ不潔物塵芥等ハ便宜ノ余地ニ於テ燒却シ又ハ人家公道或ハ飲料水ヲ隔絶スル土地ヘ埋沒スヘシ

三 便所ノ板張階板及壺ノ周圍等ハ水ヲ以テ之ヲ洗ヒ後充分ニ消毒藥ヲ散布シ置クヘシ

四 患家ノ隣等棟續ニシテ天井又ハ床下境界ナキ所ハ總テ掃除ヲ爲スヘシト雖モ消毒藥等散布ニ及ハス

五 大坂四區接續町村ニ在リテハ患家ニ用ヒタル蒲團類ヲ天保町消毒所ニ運搬シ消毒ヲ爲スヘシ

六 患家ノ井戸ニシテ轉歸後浚深セサルモノ及其已ニ浚深濟ト否トニ拘ハラズ構造不完全ニシテ汚水滲入ノ憂ヒアルモノハ家主ニ命シテ浚深又ハ修繕セシムヘシ而シテ其費用ハ總テ家主ノ負擔トス

七 不潔ノ家屋及場所ハ其不潔物ヲ取除キ汚物ハ便宜ノ余地ニ於テ之ヲ燒却シ又ハ人家公道飲料水ヲ隔絶スル土地ヘ埋沒スヘシ

但公設ノ塵芥溜ハ掃除スルニ及ハスト雖モ私設ノ分ハ其設置者又ハ共有者ニ命シ本文ノ如ク處置セシムヘシ

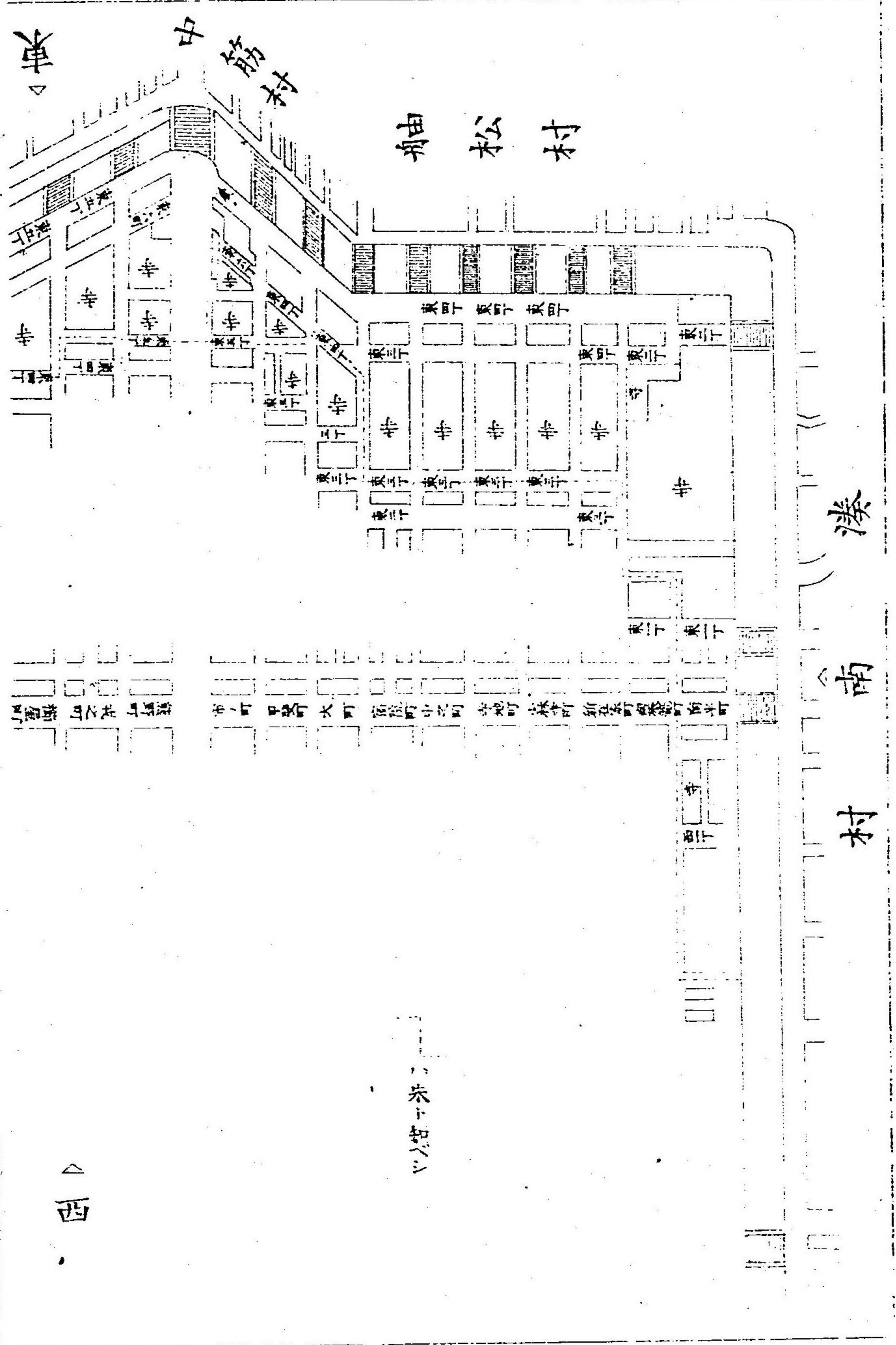
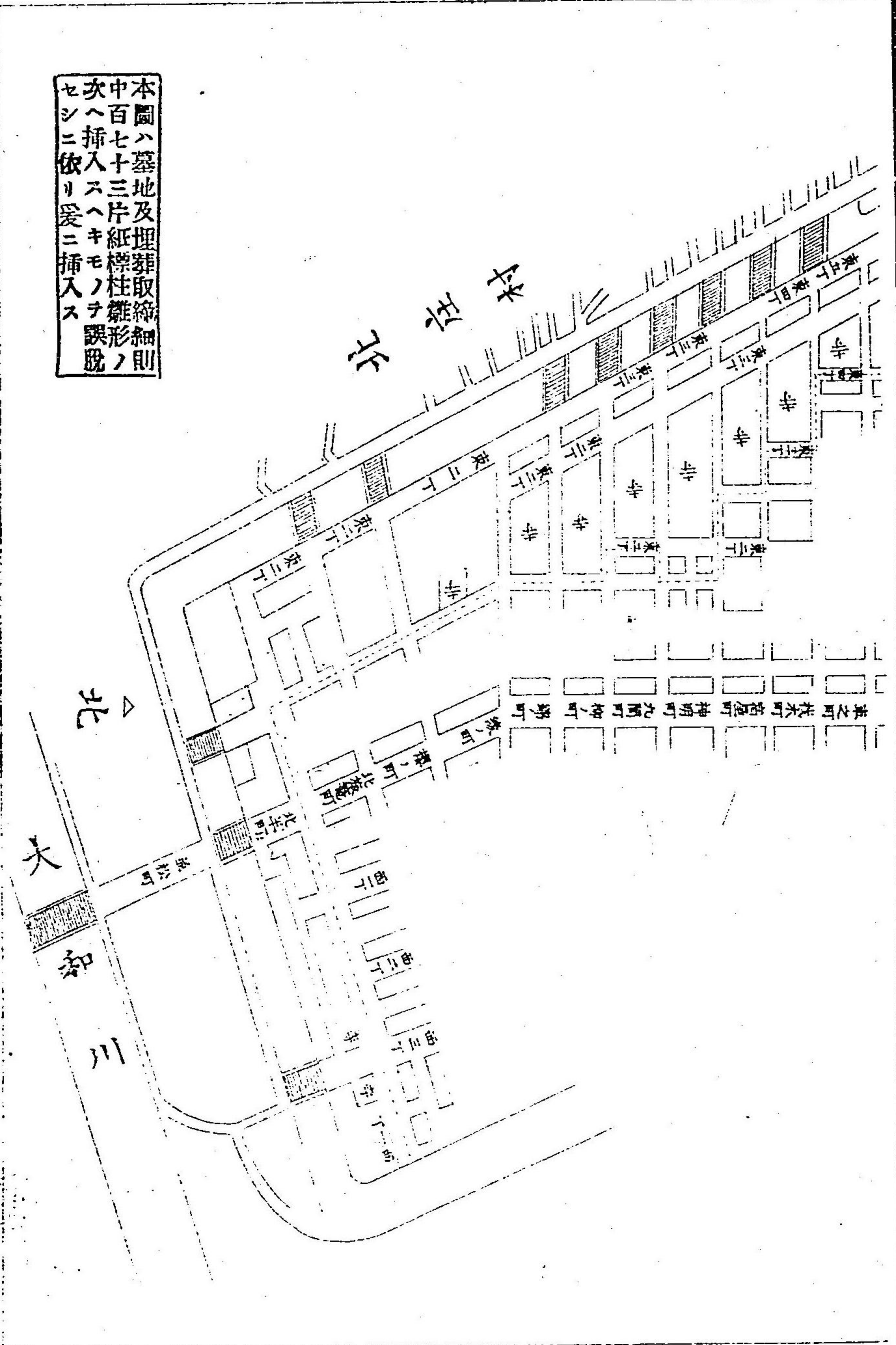
第七條 前條ノ掃除ヲ爲サントスル家屋ニ住スル者ニシテ使役ニ足ルヘキ男子アルトハ可成其男子ヲ使役スヘシ

第八條 本法實施ニ付要スル消毒藥及左ノ費用ハ豫算ヲ以テ事務掛長ヨリ事務長ヘ請求スヘシ

一 人夫賃及器具費其他雜費

第九條 本法實行中ハ本廳事務所ヨリ臨檢シ不適當ト見認ルルハ臨機指示再除掃セシムコアルヘシ

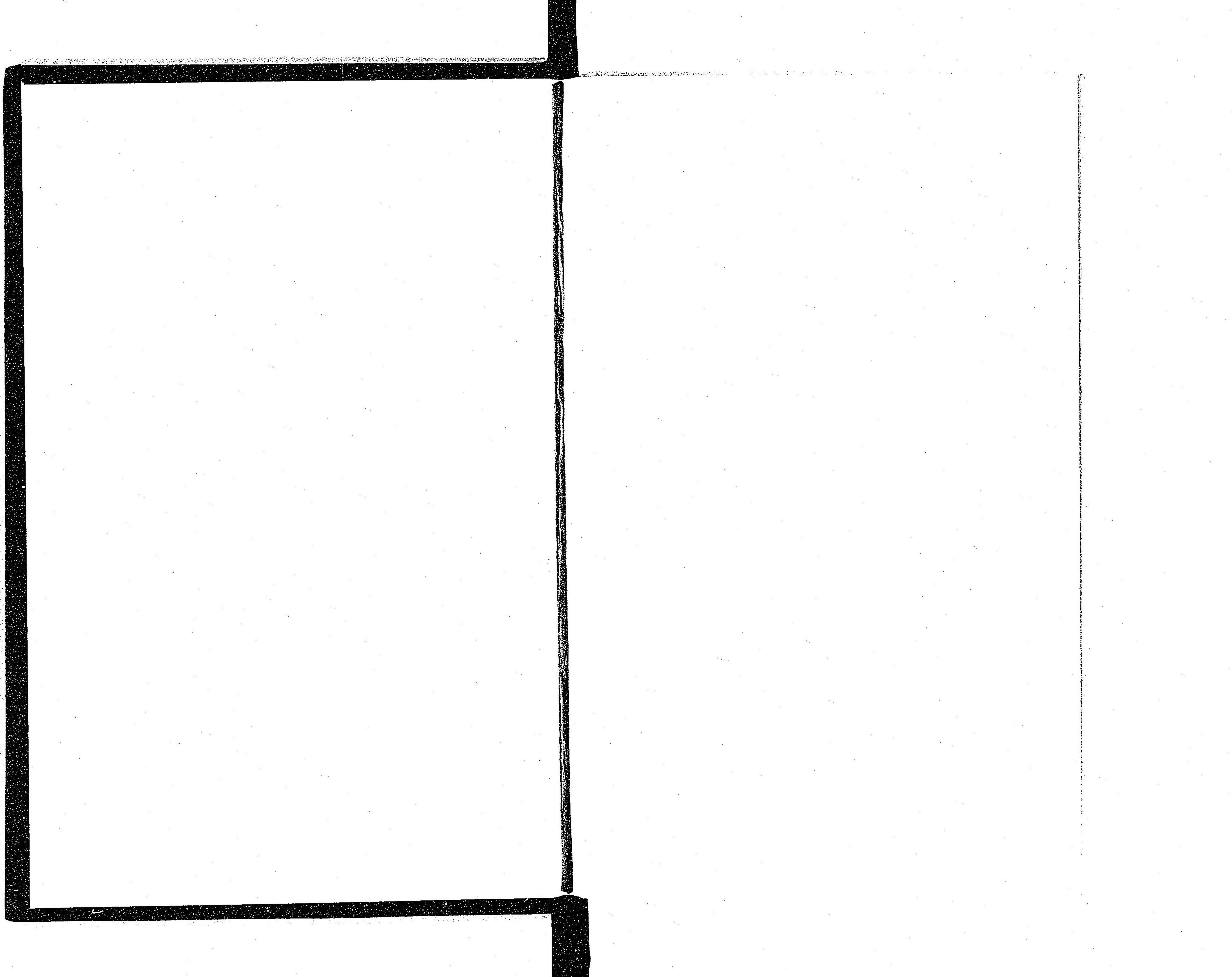
本圖ハ墓地及埋葬取締細則ノ
 中百七十三片紙標柱雜形ノ
 次へ挿入スヘキモノヲ誤脱
 セシニ依リ爰ニ挿入ス

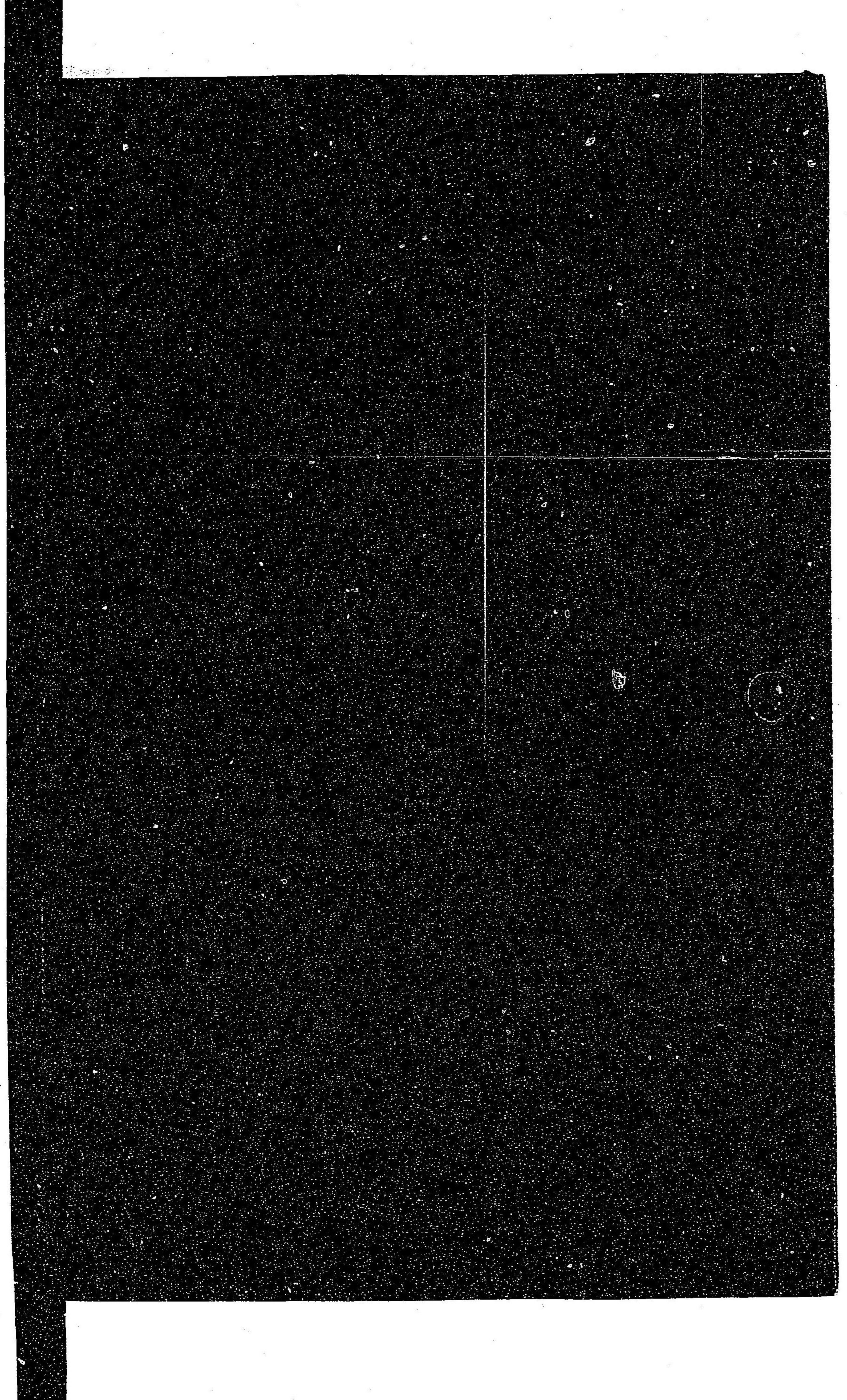


細松村

漆南村

IF 3N 2





23

46

3 1 0 3 4 5 - 0 0 1 - 0

2 3 - 4 6

大阪府警務規定

上

大阪府警察本部

